



ふるさと イベント大賞

1997~2006

10年



特集1

イベントがまちを創る

特集2

キーパーソンに訊く

寄稿 わがまち自慢のイベント

資料編 ふるさとイベント大賞 10年の記録

イベントがまちを創る イベントで人が輝く

日本各地で開催されている多くの
“ふるさとイベント”。

地域の風土や伝統、くらしを発信
し、そこに住む人々の絆を深め、
多くの交流を生み出しています。

この記念誌では、「ふるさとイベン
ト大賞」の10年を振り返り、今、地
域づくりの核となりつつあるイベ
ントの様子と、それを支える人々
をご紹介します。



ふるさとイベント大賞の5年間でふりかえって



ふるさとイベント大賞
選考委員長(第6回～第10回)

石井幹子

照明デザイナー

第6回の「ふるさとイベント大賞」から選考委員長を務めさせていただきましたが、あつという間の5年間でございました。

すべてのイベントに足を運ぶことはなかなか難しく、それが心残りですが、この5年間、魅力的なイベントに数多く接し、毎回新鮮な驚きを感じてまいりました。

なんといってもバラエティーの豊富さに驚きました。楽しいもの、美しいもの、新しいもの。そうかと思えば、伝統を掘り起こす試みなど、様々なものがあり、どれひとつとってもすばらしく、ユニークでした。

日本は、江戸時代に多様な地方文化が華開きましたが、明治以降になると画一化されて地方が個性を失ったと言われております。

しかし各地のイベントの数々を見る限り、それぞれの地方の独自性が生き続けていたことに、私は感動を覚えました。

新しい町おこしとして、地域の自然を生かしたり、寒い土地ならではのアイスキャンドルを使ったりと、その土地らしい試みがなされていたことも特徴です。

また、表彰された作品は必ずしも規模の大きいものばかりではありません。

たとえば第7回の大賞となった「仁尾八朔人形まつり2002」などは観客動員数こそ少ないのですが、手作りで一生懸命にやってお

れたことが印象的で、このようなイベントが大賞を取ったことは、他の地方にも大きな励みになったのではないかと思います。

イベントをとおして 知られざる土地の魅力を全国へ

「ふるさとイベント大賞」の意義といえば、まず、受賞によって、全国的にその名が知られること。そしてそれによってその土地の名を知り、そこを訪ねてみようという人々が増えることです。

選考委員長の私自身、今まで名前を知らなかった地方イベントがたくさんありましたが、審査をとおして、こんなすばらしいところがあるのか、という発見があり、大きな勉強をさせていただきました。

5年間の中で印象に残るものが本当にたくさんありました。

第6回の大賞「美濃和紙あかりアート展」は、今や全国的に有名なイベントになりましたが、これをきっかけに古い民家の保全や、電柱の地中化などの整備がすすみ、美しい町並を守る動きが起こったことも画期的だったと思います。

第7回の優秀賞「鹿島ガタリンピック」も印象的でした。泥んこがイベントになるということ自体が私にとっては楽しい驚きでもありました。

第8回は二つ印象に残りました。ひとつは大賞の「西塩子の回り舞台

歌舞伎公演」。長い間途絶えていた現存最古の組立歌舞伎舞台を復活したその心意気に感じ入りました。

また優秀賞の「西都古墳まつり」では、表彰式で市長さんと実行委員長的女性が古代の服装をお召しになつていて、その熱意にも打たれました。

第9回はまたちょっと変わったところで、大賞の「あつたか高知まんがフェア」と、優秀賞の「岡山弁はええもんじゃー」とはの祭り・建部」の二つが意表をつくものでした。これまで、イベントの核としてはあまり注目されることがなかった、言葉やまんががイベントの中心になったことに驚きました。

また優秀賞の石垣島の「南の島の星まつり」は、非常に少ない予算にもかかわらず工夫と熱意でイベントを成功させておられましたね。

第10回の大賞は「小樽雪あかりの路」。これはもうみなさん納得の受賞です。私はその他に、優秀賞の「エアロパティックジャパンINかくだ2005」というグライダーのイベントも印象に残りました。

また部門賞の「土谷棚田の火祭り」は棚田の保存という目的に大きな意義がありました。

日本ってやっぱりいいな、 を実感するイベント

この5年間で私も「やっぱり日本っていいなあ」と感慨を深くいたし

個性豊かな地方文化が華開いた イベントの数々



ました。同時にイベントに関わる方、イベントに訪れる大勢の方たちにも同じように感じていただけたのではないかと思います。

現代は都市に人口が集中していますが、地方で暮らすばらしさを分かっていたくことにも意義があります。社会の流れも変わってきています。都市で暮らすことだけが良いという風潮は、このへんで考え直したほうが良いのではないのでしょうか。地方から新しい潮流をどんどん作っていただきたいと思っています。

「ふるさとイベント大賞」は地方に活気を取り戻すためにも大変意義のある賞です。もっと大勢の人たちに知っていただきたいと思っています。現在では応募数も多く、自分たちも参加してみたいという地方も年々増えていると聞いておりますが、今後の課題として、新聞紙上などで、さらに幅広く広報をしていただき、一層の周知を図っていただきたいと思っています。

また各地方では最寄りの空港などでそのイベントの様子をビデオなどで流していただくというのはどうでしょうか。1分間程度の映像でもいいのです。訪れた人たちが待ち時間の間に、イベントの模様や、受賞のニュースを見ることが、その土地の魅力に触れ、より親しいものとなるのではないのでしょうか。

インタビュー

「個性豊かな地方文化が華開いたイベントの数々」	2
石井幹子選考委員長(第6回～第10回)	

特集1 イベントがまちを創る

テーマ1 地域に残る伝統を受け継ぐ

五所川原 立佞武多 青森県五所川原市	6
西塩子の回り舞台歌舞伎公演 茨城県常陸大宮市	10

テーマ2 イベントで地域資源を発信

たんのカレーライスマラソン 北海道北見市	13
エアロバティックジャパンINかくだ 宮城県角田市	16

テーマ3 イベントはまちのブランド

佐賀インターナショナルバルーンフェスタ 佐賀県佐賀市	19
なら燈花会 奈良県奈良市	22

特集2 キーパーソンに訊く

テーマ1 若者は地域の宝

ことばのちからイベント事業 松山「俳句甲子園」 愛媛県松山市	26
--------------------------------	----

テーマ2 一人の想いが地域を変える

獅子舞フェスタ 香川県三木町	30
----------------	----

テーマ3 ボランティアの力

万葉集全20巻朗唱の会 富山県高岡市	33
--------------------	----

テーマ4 外からの目でふるさつを見る

丹波の森国際音楽祭シューベルティアーデたんば 兵庫県篠山市・丹波市	36
-----------------------------------	----

寄稿 わがまち自慢のイベント

江戸幕府 鉄炮組百人隊出陣の儀 東京都新宿区	40
大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 新潟県十日町市・津南町	42
美濃和紙あかりアート展 岐阜県美濃市	44

選考委員(第6回～第10回)コメント 46

岡崎昌之 法政大学現代福祉学部学部長

宮本倫明 イベントプロデューサー、地域ブランディングプロデューサー

マリ・クリスティーヌ 異文化コミュニケーター

資料編 ふるさとイベント大賞10年の記録

受賞イベント全国マップ・各回受賞イベント紹介	50～71
------------------------	-------

第11回 ふるさとイベント大賞 72

※各イベントに掲載している「DATA」は、直近の開催状況を紹介しています。なお、人口は「全国市町村要覧(平成18年度版)」によるものです。

特集

1

イベントが まちを創る

ふるさとイベント大賞を受賞したイベントは、どれも地域の風土や歴史、文化など、いわばその地域が持つ「まちの物語」を生かしたイベントです。これらのイベントは、まちの魅力を見出し、地域の誇りを復活させることにつながっています。

ここでは、6つのイベントを取り上げ、それぞれがまちの元気につながっている様子をご紹介します。

津軽半島の中央に位置する五所川原市。岩木山の麓に広がるこの街に、平成10年に新しい祭りが生まれた。五所川原 立佞武多（たちねぶた）。街の有志による巨大ねぶたの復元が、今や140万人を超える観光客を集めている。

津軽の空高くそびえる 巨大ねぶたが起こした奇跡

青森県
五所川原市

テーマ1 地域に残る伝統を受け継ぐ

青森県五所川原市

たちねぶた 五所川原 立佞武多

（第3回・優秀賞受賞）

見上げる巨大ねぶた
五所川原の代名詞に

祭り提灯にボツと明かりがともると、期待はいよいよ高まる。

栈敷席でほてる頬を夕風に吹かれながら、そわそわと通りを練り歩きながら、人々は思い思いにそのときを待つ。遠くから聞こえてくるお囃子（はっし）とかげ声。今年も、待ち焦がれていた立佞武多（たちねぶた）がはじまろうとしている。

五所川原立佞武多。平成10年から始まった、いわば新興のねぶた祭りは、今や青森ねぶた、弘前ねぶたとともに青森の三大ねぶたに数えられるまでに、大きなイベントとして成長している。

平成18年の観客総数は約14.5万人。まさに、五所川原の代名詞となった。

立佞武多はとにかく、巨大。その背丈は約22メートルと、7階建てのビルにも匹敵するほどだ。町の建物から頭ひとつ出ているそりと進む姿は、見る者を圧倒し、動くたびに「ウワァー」と地鳴りのような歓声があちこちで上がる。本場・青森でも、これほどの巨大なねぶたを見ることがするのは、ここ、五所川原だけだ。

しかし、立佞武多のすばらしさは、その大きさばかりにあるのではない。躍動感にあふれる造形、極めて繊細な細工と色づけ。電球の明かり



巨大な立佞武多は、繊細な細工と色づけも見どころのひとつ。幻想的な美しさをたたえる。写真は平成18年度制作の「絆」



立佞武多には大勢の子どもたちも参加する。手振鉦を鳴らしながら「やってまれ！、やってまれ！」とみんなで威勢のいい掛け声

DATA

【自治体名】青森県五所川原市
(人口 63,859人)

【主催団体】五所川原市

【開催日】平成18年8月4日(金)～8日(火)

【開催場所】五所川原市中心部

【観客動員数】1,450,000人



見上げるばかりの圧倒的な大きさ。動くたびにどよめきが始まる

で宵闇に浮かぶ様は、思わずため息がもれるほどに美しい。さらに、曳き手、跳人、踊り手、囃子方^{はやしかた}が立佞武多の脇をかため、独特のお囃子に合わせて、「やってまれ！、やってまれ！」(津軽弁で「やってしまえ！」の意)の小気味よいかけ声を夜空にこだまさせる。すると、観客の側もいつしかリズムをとり出し、祭りの渦に呑み込まれてゆく。

平成10年の初運行から、今年で9年。このわずかな期間で、140万人以上の観光客を集める祭りに成長したことを、町の人は「まるで奇跡のようだ」と言う。

その奇跡は、古い一枚の写真と、巨大な舞台設計図の発見からはじまったのである。



1



3

2

1 立佞武多には、巨大な直径3メートルを超す「あすなろ太鼓」も登場 2 3 色とりどりの祭り着をまとった踊り手がお祭りを盛り上げる



4

5



明治後期に作られた巨大ねぶたの写真を発見(右)。これを参考に、有志が集まって、平成の世に巨大ねぶたを復活させた(左)

4 ねぶたがいつでも見られる「立佞武多の館」には年間15万人を超える観光客が訪れる 5 国、県等の支援により、通りを横切る電線を地中に埋設。これによって、ねぶた運行が可能となった





立佞武多の制作には「立佞武多の館」の職員が当たるほか、市民も自由に参加。紙貼りや色づけをすると証明書が発行されるので、子どもたちも積極的だ

約一世紀ぶりに 巨大ねぶたを運行

かつて、青森各地で巨大ねぶたは作られていた。しかし、町が電化され、道路に電線が張りめぐらされると必然的にねぶたは小型化。五所川原も例外ではなく、いつしか巨大ねぶたは姿を消し、背の低いねぶたを運行させるようになった。

しかし、あるとき、地元新聞社の資料から明治後期に作られた巨大ねぶたの写真が、続いて市内の民家から巨大ねぶたの台座設計図が発見された。「五所川原に昔のような巨大ねぶたを復活させよう」。これをきっかけに、平成8年4月、市職員を中心とした有志が、巨大ねぶたの復元を始めたのである。人手不足と資金難に苦しみながらも、市民にカンパとボランティアを募り、7月、とうとう往時と同じ姿の巨大ねぶたが完成。「立佞武多」と命名された。

お披露目を終え、これで巨大ねぶたの復活劇は終わった……。制作に携わった誰もがそう考えていた。しかし、市民にとって巨大ねぶたの復活は大きな衝撃。ぜひ町で運行しようという機運が高まっていたという。しかし、それには電線の埋設、予算の確保、安全警備などの問題が山積していた。実現は困難に思われたが、市民の熱情に突き動かされるようにして、市側の支援が決定。新たな立佞武多の制作に着手し、平

成10年8月5日、30人の若者たちに曳かれ、とうとう巨大ねぶたが五所川原の町を練り歩いた。それは、約一世紀ぶりの光景だった。

立佞武多をきつかけに 町は元氣になった

「お祭りを作ろうなんて、初めから意図していたわけではありません。ただ昔のねぶたを復活させてみたかった。そんな純粋な気持ちからはじめたことなんです」。平成8年の巨大ねぶた復活劇の中心メンバーとして活躍した商工観光課長の菊池忠さんは当時をふりかえる。しかし、今や五所川原、立佞武多には毎夏140万人以上が集まり、そのたびに祭りの様子がマスコミに取り上げられ、五所川原の名も全国に広がっている。さらに、平成15年には市の中心部に巨大ねぶたの常設施設「立佞武多の館」がオープン。年間有料入場者数は15万人を超える。

商店街の活性化にも立佞武多は貢献している。予定される中心商店街の区画整理事業では、区画整理後も商売を続けると答えた店舗はかつては4割に過ぎなかったものの、立佞武多の定着後は、9割を超える店舗が商売を続けると答えたほどだ。

市民の祭りへの関わりも年々、積極的になり、立佞武多制作の紙貼りや着色などには多くの市民が参加。自分が作ったねぶたが町を練り歩くことで、祭りへの意識がますます高

まっている。また、町内会や学校単位でも立佞武多が自主制作されるようになり、ねぶたの数と規模は年々大きく、華やかになっている。

「立佞武多が生まれたことで、なんにもなかった五所川原の町が誇れるようになった。そう言われたことが、一番うれしかったですね」。

市民の心の中のまちづくりにも大きな役割を果たしている立佞武多。その存在感はますますの高まりを見せている。

五所川原市商工観光課長の菊池忠さん。巨大ねぶた復活の中心メンバーのひとり



収穫の終わった後の広々とした畑の真ん中に出現した舞台。竹を組んだアーチ型の屋根を持つこの美しい建築は地元の人々が1カ月がかりで組み立てた「西塩子の回り舞台」だ。10月も終わりに近い週末の一日、この舞台作りに関わった人々が、朝早くから晴れやかな笑顔で集まってきた。周辺の道路には轎が立ち、畑はにわか作りの駐車場に変わった。地域全体が一丸となってこのイベントを盛り上げていくという気分が伝わってくる。

半世紀を経て 日本最古の組立舞台が復活

「西塩子の回り舞台」は、茨城県常陸大宮市の西塩子地区に伝わる組立式農村歌舞伎舞台。現存し活用されているものとしては日本最古のものである。江戸時代の後期から昭和初期まで、農閑期の祭として、住人総出で組み立て、近隣からプロの一座を呼んで芝居を上演してきた。

ところがその貴重な舞台も時代の変化とともに組み立てられることが減ってゆき、やがて半世紀近く倉庫に眠ったまま忘れられていた。

その調査が始まったのが平成3年。それから足掛け7年目の平成10年に、前年の組立実施を経てようやく完全復活されたこの舞台は「全国地芝居サミット」の会場としてデビュー。全国にその名を知られる存在となった。

「文化事業」というだけでは 地元に着しない

平成3年の調査開始以来、この舞台と深く関わってきたのが常陸大宮市歴史民俗資料館の石井聖子さんだ。

「調査を始めたころは、組み立て方もわからなくて、詳しい先生に見ていただいたり、組立舞台が現役で残っている東京の菅生まで見学に行ったりしました」。

実際に組み立て、上演されるまでには7年の歳月が流れた。

「当初、地元では復活の見通しはありませんでした。『なんで今ごろそんなことしなきゃなんないんだ』という声ばかりで（笑）」。

農村地帯といえども今やほとんど

が会社勤めの兼業農家。舞台の組み立てには地元の人々の負担が大きい。当時を思い出して石井さんは言う。

「これからの文化財行政は、経済的なことも含め、地域へのメリットを考えていかなければならないことを勉強しました。貴重な文化財というだけでは地元は動きません」。

「先祖さんが残してくれた、ここだけの宝を地域活性化に利用しない手はないだろう」という人たちの声を広げることによって復元にこぎつけ、現在につながってきた。

「平成の大幕」制作で 次のステップへ

初めのそんな苦労を知っている石井さんが今感じているのは、継続す

日本最古の組立舞台を復活

「文化財の保存」に終わらずに 地元で活気をもたらし核として成長

地元公民館のグラウンドに組まれた回り舞台。300本の真竹、材木200本余りを使い敷地の広さに応じて間口は4間から最大7間まで自在に変えられる。



DATA

【自治体名】茨城県常陸大宮市
(人口 48,846人)

【主催団体】西塩子の回り舞台保存会

【開催日】平成18年10月28日(土)～29日(日)

【開催場所】大宮公民館塩田分館グラウンド

【観客動員数】4,000人

テーマ1 地域に残る伝統を受け継ぐ

茨城県常陸大宮市

にししおご 西塩子の回り舞台 歌舞伎公演

(第8回・大賞受賞)



1 客席となるブルーシートは、子や孫達の晴れ舞台を見に集まった人たちでいっぱい。2 地元の子どもたちは小学校の総合学習や伝統文化こども教室で子ども芝居を経験し、全員がこの大舞台に出演する。みなとても上手だ。3 常磐津(ときわづ)の「将門」。小学3年生の滝夜叉姫(たきやしゅひめ)。衣裳や化粧は本格的。4 歌舞伎の他に屋台囃子などの伝統芸能も披露。5 大人気の歌舞伎「寺子屋」の一場面。6 人形浄瑠璃を80年ぶりに復活させた真壁白井座(県内桜川市)も友情出演。





9



10

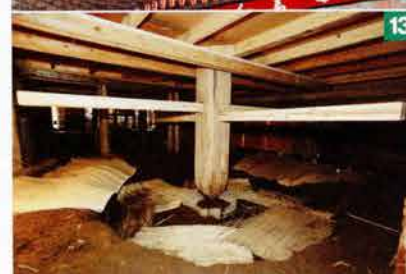


11

9・10・11 舞台の組み立て、会場の屋台の出店など住民が一体となって盛り上げる。



12



13

12 舞台の上を覆う見事な竹のアーチの屋根。竹を結び合わせるのはワラ縄。組み立てるまでにおよそ1カ月かかる。13 舞台の床下にあるのが回り舞台を回す装置。芯棒の横木を数人がかりで押して回す。14 歴史民俗資料館の石井聖子さん。行政と地元の人々の間を取り持ちつつ西塩子の回り舞台に関わってきた。



8

7 8 地元の機織グループが中心になって多くの参加者とともに作りあげた「平成の大幕」。綿の栽培、収穫、手紡ぎ、織りを成し遂げ兵庫の染色家が染めて、いよいよデビュー。

ることのさらなる難しさである。最初はマスコミにも注目され地元も盛り上がるが、それだけではすぐに飽きられてしまう。常に次のステップを考えないと続いてはいかないのだ。今回、その目標の一つとなったのが「平成の大幕」だ。文政3年から受け継がれる江戸時代の大幕はすでにボロボロになっている。そこでまた2000年先まで西塩子の財産となる

べき新しい幕を作ろうという動きが広がった。江戸時代と同じように地元の人々自身が綿を栽培し、紡ぎ、織った布で新しい幕を作った。制作には、綿栽培と収穫に小学校など22の団体・個人が参加。その綿を紡いで地域の機織グループが手分けして織った。さらに染色は全国から公募し、兵庫県染色家、浅井一甲氏が担当。構想から足掛け5年、ついに縫い合わされて完成。この秋、舞台でお目見えした。多くの人がかかわったこの幕は、これからまた2000年、この舞台とともに残って大切にされていくだろう。「それだけでうれしい」と関わった誰もが口をそろえた。「舞台を組み立てるには技術の伝承が不可欠。今後も定期的に舞台を

組み立て、積極的に利用してもらい、裾野を広げたいですね」と石井さんは言う。舞台は使うことに意味がある、と言う石井さん。将来は、伝統芸能にこだわらず、たとえば、演劇やコンサートなどに使いたいという団体があれば貸し出し、より多くの人に愛される舞台にしていきたいという。



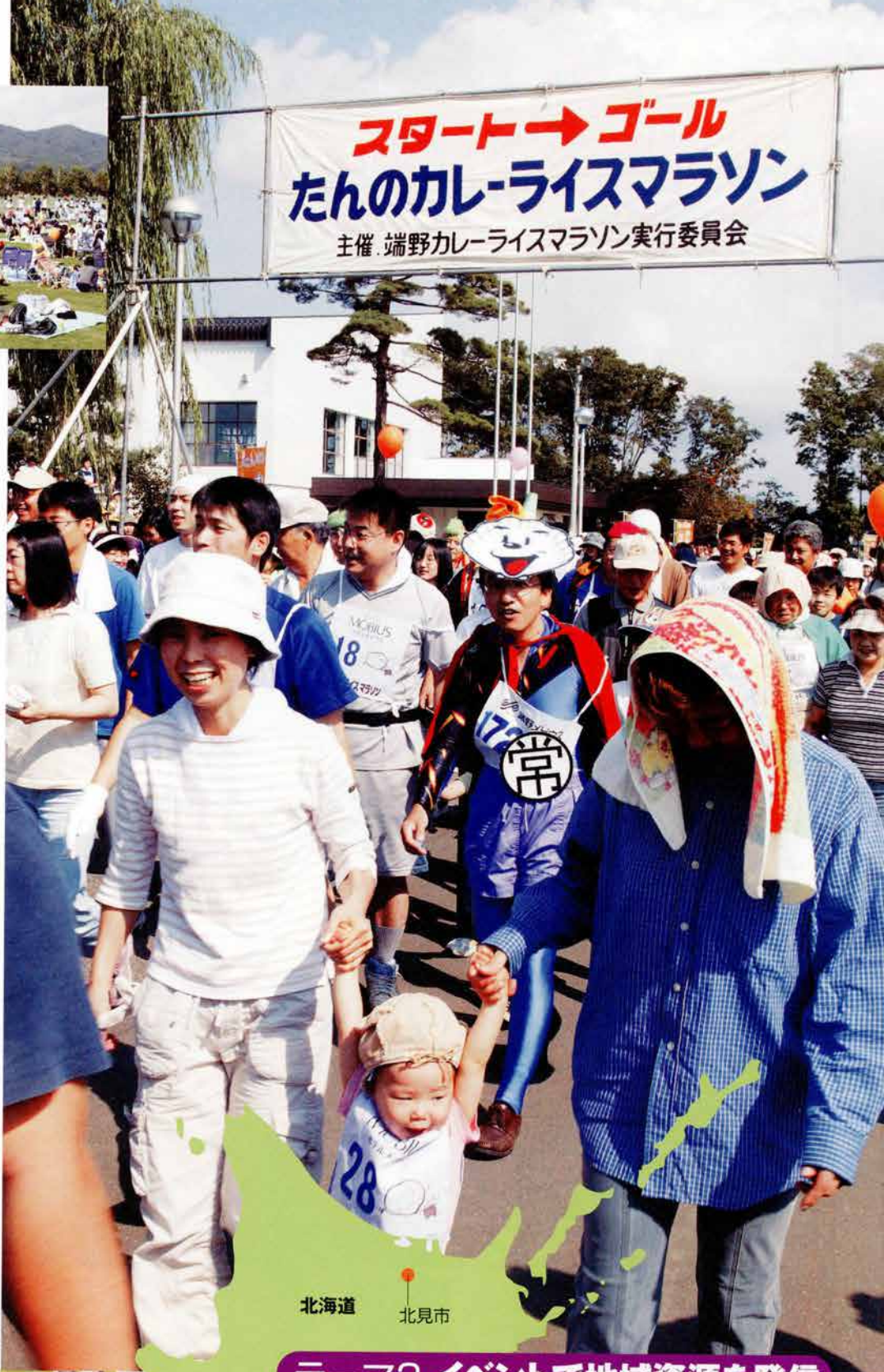
14



スタート→ゴール たんのカレーライスマラソン

主催 端野カレーライスマラソン実行委員会

「カレーライス」と「マラソン」!!
一つを結びつけたのは
きらりと光るアイデア



北海道

北見市

テーマ2 イベントで地域資源を発信

北海道北見市

たんのカレーライスマラソン

(第5回・選考委員特別賞受賞)



「たんのカレーライスマラソン」。

一度聞いたら忘れられない、このユニークなネーミング。

北海道東部の肥沃な畑作地帯に位置する北見市端野町で昭和61年に初開催。

以来、地元の人々に愛され続けている名物イベントだ。

じゃがいもコースのチェックポイントでは、参加者自らが畑からいもを掘る。子どもたちも大喜びだ

DATA

【自治体名】北海道北見市 (人口 128,499人)
【主催団体】たんのカレーライスマラソン 実行委員会
【開催日】平成18年9月17日(日)
【開催場所】端野町屯田の杜公園
【観客動員数】1,000人



2



3



1 それぞれのコースのチェックポイントで材料を調達。「どのルーにしようかな〜?」2 タイムを競うマラソンではない。実りの景色を見ながらゆっくりお散歩3 秋の気持ちのよい風を受けながら、参加ランナーは端野の豊かな自然の中を駆け抜ける



「カレー」と「マラソン」を融合
誰もが楽しめるイベントに

真剣に走る人、ゆったりと歩く人、仮装して愛嬌をふりまく人。ランナーは思い思いのスタイルで、北海道の美しい秋空の下を走る。共通しているのは、誰もが心からこのイベントを楽しんでいることだ。

たんのカレーライスマラソン。北海道東部の端野町(現在は合併により北見市)で毎年開かれるこのイベントは、名前に違わず中味もユニーク。

マラソンといっても4人一組のチーム単位での参加。コースは4つに別れ、それぞれ「じゃがいもコース」「玉ねぎ・にんじんコース」「肉コース」「カレールーコース」と名付けられている。ご想像の通り、いずれもカレーの材料だ。

各2〜5km程度の距離が設定されている。どのコースにも途中でチェックポイントがあり、そこで材料を

端野町のマスコットキャラクター「のんたくん」
子どもたちに大人気



渡されて、4人がゴールしたらあとはみんなでカレーを作って楽しむという趣向だ。タイムや順位を競うものではないので、大人から子どもまで自由なスタイルで参加できる。

9月17日、澄み切った青空の下で、第21回大会が開催された。

「すっかり我が家の秋の行楽イベントです。子どもたちも楽しみにしているんですよ」

そう語ってくれた参加者のひとりは、毎年親子4人で参加しているという。参加者の半数はリピーターとのことで、このイベントの熱烈的なファンが多い証拠といえる。

実際、年々知名度が高まり、参加者も増加している。今年は募集枠一杯の170チーム、応援も含めると総勢1000人を超える人達が参加。遠くは札幌や苫小牧からもこのイベントに駆けつけた。年齢層も幅広く、また、車椅子で参加する人もいる。

メイン会場となった野球場は、気持ちの良い芝の上で、手作りのカレー

を食べる老若男女でにぎわう。皆、満面の笑顔だ。

そもそもこのイベント、どんなきっかけではじまったのだろうか。

カレーの食材が全部揃う町

昭和60年、当時の端野町体育協会では、体育の日に向けたイベントを計画していた。協会会員や事務局のスタッフでいろいろとアイデアを出していたが、どうもこれといった決め手がない。なんとかマラソンにしようというところまでは決まったが、ただそれだけでは特色が出ない。なにか良いアイデアはないか。そうして悩んでいると、スタッフのひとりが急にひらめいた。

「端野は玉ねぎとじゃがいもが特産だ。他に、にんじんも米も肉も穫れる。これらの食材を集めながら走るマラソンってどうだろう？」

あつという間に意見がまとまり、昭和61年、他に類を見ないユニークなイベント、「たんのカレーライス

マラソン」がスタートすることになった。キャッチフレーズは「カレーの材料が地元で揃う町」だ。

食欲とスポーツの秋をドッキング。さらには回を重ねるごとに大食いコンテストや仮装コンテストを取り入れるなど、さまざまな趣向を凝らしてきている。

また、地元の手作りイベントとして、約100名のボランティアスタッフに支えられている。ボランティアの中心は、町で畑作を営む農家の人々。忙しい収穫期にもかかわらず、時間を割いてボランティアに参加してくれるのは、町を盛り上げようという機運があるからこそだ。

「今後は、地元の食材をもっとアピールして、地産地消を推し進めていけたらと思います。さらに、合併後の北見市民との交流も促進して、ふれあいのまちづくりをしていきたいですね」と、実行委員会の北川正美委員長。名物イベントのさらなる発展に期待を寄せる。

イベント終了後は、参加賞として端野特産の「玉ねぎ・じゃがいも」が全チームに一箱ずつプレゼントされた。最後まで我が町端野を満喫できる、このイベント。次回はあなたも参加してみては？

5

4「最近では若い人のボランティアも増えてきて、うれしいですね」(北川正美実行委員長)。地域の世代間交流も深まり、連帯感が強まってきたことを実感する5会場では、ボランティアスタッフが活躍。炊飯やご飯の盛りつけなど、それぞれができる範囲でイベントを支えた



4



「航空の町」に、優雅に舞うグライダー オンリーワンの航空イベントで 夢は世界へとふくらむ

10月8日、宮城県角田市で「エアロバティックジャパンINかくだ2006」が開催された。このイベントはグライダーの曲技飛行を披露する日本で唯一の大会として、また、角田最大のまちおこしのイベントとして、その知名度とファンを増やし続けている。

テーマ2 イベントで地域資源を発信

宮城県角田市

エアロバティックジャパン IN かくだ

(第10回・優秀賞受賞)

宮城県

角田市

空を見上げれば
グライダーが舞う町

阿武隈川の河川敷には、今朝がた通り過ぎた台風の残滓が吹きつける。帽子が飛ばされるほどの強風の中、見上げると青空に純白のグライダーが水平に進んでゆく。次の瞬間、きりもみをしながら急降下。さらに上昇・下降、宙返りを繰り返しながら、グライダーは大空にゆっくりと優雅なシブールを描いてゆく。

10月8日、第3回を迎えたグライダー曲技飛行イベント「エアロバティックジャパンINかくだ」が宮城県角田市で開催され、今年もその美技で大勢の観客を酔わせた。

宮城県の南部に位置する角田市。阿武隈川の流域に広がるこの町は、北西部に宇宙航空開発機構の宇宙推進技術センターがあり、以前から「航空の町」としてまちづくりを行ってきた。

また、四方を山に囲まれ、豊富な上昇気流が発生するという独特の地形から、日本でも有数のグライダーの適地としても知られている。

市の商工会青年部は、平成11年からこのグライダーに着目。宮城県航空協会と共に、河川敷に滑空場を整備し、市民体験試乗や航空イベントを手がけてきた。いつしか市民には「空を見上げればグライダーが飛んでいる」光景が定着した。

そして、このグライダーを使って



2



1

1 世界チャンピオンのイエジー・マクラ氏。グライダーの本場、ポーランドから参加2第3回となる今年は、ポーランド、オーストリア、アメリカから3選手を招いた3当日は台風の影響で小雨まじりの天気だったが、大勢のギャラリーが詰めかけた



3

DATA

【自治体名】宮城県角田市

(人口 33,233人)

【主催団体】エアロパティックジャパン

INかくだ 実行委員会

【開催日】平成18年10月7日(土)～8日(日)

【開催場所】角田滑空場

【観客動員数】2,000人

※雨天のため、平成18年の開催は8日のみ。



動力源の付いていないグライダーは自力では飛び立つことができない。セスナ機に上空1500メートルまで牽引され、そこで切り離されてから曲技を行う

海外からも選手を招き 認知度はますます高まる

まちおこしをしようという機運が高まり、商工会青年部とそのOB、さらには広く市民に呼びかけて有志団体「スカイネット角田」が平成16年に結成された。市、宮城県航空協会などと連携をとりながら、国内外からの有名選手を招き、同年10月、グライダー曲技飛行イベント「エアロパティックジャパンINかくだ」が開催されることとなった。

イベントは、平成18年で3回目。まだ始まったばかりだが、海外から世界チャンピオンを招待してデモフライトを披露してもらうなど、スケール感のある航空ショーには毎回訪れている観客も多く、地元だけでなく関東や新潟からもファンが駆けつける。好天に恵まれた昨年度は観客動員が2万人を超えるなど、すでに角田の一大イベントに成長した。

また、会場では地元産の新米やプロッコー、キャベツなどを売る物産市も開催される。平成17年は約40店が出店し、人気を集めた(平成18年は悪天のため出店は中止)。

ほかにも、プロペラ機の飛行ショーやラジコン飛行機ショー、スカイダイビング実演なども行われ、総合航空イベントとして、市内外で着実にその知名度を高めている。

資金難にめげず 町の活性化を目指す

第1回からイベントは上々の滑り出しとなっているが、実行委員長の佐藤忠義さんによると、やはり毎回資金集めに頭を悩ますと言う。

全体のイベント予算は約500万円。市や商工会からの補助金が出ているものの、それでも約半分は実行委員会が各企業を回って協賛金を工面する。

現在、大企業からの大口協賛がない状況なので、「100以上の企業に声をかけています」。

実行委員会でも、大会パンフレットの有料化など、資金集めの方策を

探っているが、これといった特効薬はまだ見つからない。安定した資金集めは、これからの大きな課題となっている。

一方、イベントの周知とともに、実行委員会の夢はふくらむ。

「まずはこのイベントを通して、航空の町・角田を今以上にPRしたいですね。最終的には角田滑空場の周辺を整備して、学校や企業、研究施設を誘致していけたらと思っています」と佐藤委員長。

「オンリーワンのまちづくり」を合い言葉に発展してきた角田市のまちおこし。上昇気流をつかむグライダーのように、さらなる高みに舞い上がる可能性に満ちている。



スカイダイビングや曲技飛行専用機のエアロバティックショーも開催され、観客から喝采を浴びた



4「角田は農業の町でもあります。たとえば農業体験と航空イベントを組み合わせるなど、連携を取っていけばさらなるまちおこしにつながっています」(佐藤忠義実行委員長) 5会場ではグライダーの機体を展示し、観客に開放した 6 7 農業の町・角田をPRするために、地元の特産品を販売する「角田大物産市」のコーナーも人気。



色鮮やかな熱気球が、次々と青空に浮かぶ
晩秋の空を彩る熱気球は
佐賀の子どもたちの原風景



佐賀県

佐賀市

テーマ3 イベントはまちのブランド

佐賀県佐賀市

佐賀国際ナショナル バルーンフェスタ

(第2回・選考委員特別賞受賞)

九州の二大観光地、福岡と長崎にはさまれた佐賀県佐賀市。
この地に“熱気球のまち”という個性的な顔をもったのが、このイベント。
世界14カ国から参加した114機もの熱気球の飛行を観に、
子どもからお年寄りまで90万人近い観客が集まる。



アジア最大の 熱気球イベント

晩秋の佐賀市。嘉瀬川の河川敷にある競技エリアは、未明から大勢の人が集まり、興奮と緊張に包まれている。午前7時に開始される数種のバルーン（熱気球）競技に参戦するため国内外から集まった83機（競技用以外の気球を合わせると114機）もの熱気球が、フライトの準備をしているのだ。

ボツ、ボツとバーナーが轟音をたてる。高さ約20m、直径約17mもある巨大な熱気球が大きくふくらんでいき、美しい形状を現す。熱気球は少しずつ浮き上がり、機体を支えるロープを握るスタッフたちの顔は、いっそう真剣さを増す。パイロットがロープを外すと、機体はゆっくりと高度を上げ始める。大きく手をふりながら空高く昇っていくパイロットに、土手に集まった観客は、「いってらっしゃい！」と声援を送る。

熱気球は方向を操る

舵などのないシンプルな乗り物。バーナーの点火の間隔を調整することで高度を変えながら、目的地の方向に吹く風の層を探り、風に乘って運ばれてゆく。安全で正確な飛行のためには熟練を要するが、スピードではなく



1

DATA

【自治体名】佐賀県佐賀市 (人口204,116人)
【主催団体】佐賀バルーンフェスタ 組織委員会
【開催日】平成18年11月1日(水)～5日(日)
【開催場所】佐賀市嘉瀬町(嘉瀬川河川敷)
【観客動員数】877,000人

1 今年新登場の「さがえびす」号は、佐賀市が制作 2 佐賀バルーンフェスタ組織委員会会長の水町博史さん 3 階段状の土手は、格好の観覧席



2



3



4 1日目のテーマは「ハートフルデー」。障がいのある人やお年寄りを招待して、熱気球の乗り心地を体験してもらいイベントを開催5 2日目の「キッズデー」には約6,000人の子どもが来場7 4日目と5日目の夜には、熱気球の夜間係留を実施8 地元の物産を販売するブースは佐賀市が運営。雨や強風で競技ができない場合も、来場者を楽しんでもらえる

操縦の正確さを競う競技だけに、地上で見守る観客の目には、ひたすら美しく優雅なスポーツに映る。

「佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」は平成18年に第27回を迎え、熱気球のイベントとしてはアジアで最大規模。主催は、約30人の市民ボランティアを中心として構成された佐賀バルーンフェスタ組織委員会だ。会長の水町博史さんは、佐賀市民と熱気球の関係をこう語る。

「佐賀の子どもたちが『パパ、ママ』の次に覚える言葉、それは『バルーン』なんです」。

それほど熱気球は、佐賀の子どもたちにとって近い存在だ。なぜなら、大会の開催期間だけではなく、家族と近所を散歩していても、JR長崎本線の列車に乗って窓から外を眺めていても、青い空にぽっかりと浮かぶ色鮮やかな熱気球が、自然に目に飛び込んでくるのだから。佐賀では5月下旬から6月下旬までと、

10月中旬から2月下旬までは、規定エリアで熱気球の飛行が許可されている。視界をさえぎるものがない広々とした佐賀平野の上に漂う熱気球は、佐賀市民にとってはおなじみの、「ふるさとの風景」となっているのだ。

公と民の連携で、佐賀を訪れる人を楽しませたい

水町さんは、こう続ける。

「私たちには『まちおこし』をやっているという気負いはないんです。熱気球と佐賀が大好きで、『国内外から来場されるお客様に、佐賀でのイベントを存分に楽しんでもらいたいから』と集まってくる」

手伝ってくれるボランティアスタッフは、中核のところだけで400人。このほかにも、小学生や婦人会が会場のごみ拾いをしたり、期間中、実に2500人のボランティアが参加する一大イベントになっている。



イベントの会期中は道路が大渋滞し、駐車場も不足してしまう。そこで市は、JR九州に、仮設駅をつくることを提案。平成元年から、会場に直結したJR「バルーンさが」駅を会期中だけ開設している。

市民ボランティア、自治体、企業が一体となって、これだけ有機的に運営されているイベントは、全国でもめずらしいのではないだろうか。

市とは年間を通して話し合いをし、運営費の内訳などもオープンにして、風通しのいい関係を築いていると言う。

「意見や感覚の違いから、かんかんががくの議論をすることもしょっちゅうですが、今後も手を取り合って、この国際的なイベントを継続させていきたい」と語る水町さんには、佐賀を代表するブランドにまで成長したこのイベントへの自信と誇りが伺えた。



歴史と世界遺産の町に 華やかな静寂が訪れる

運営は延べ3000人を超えるボランティアの手で



テーマ3 イベントはまちのブランド

奈良県奈良市

なら燈花会

(第7回・部門賞[産業・観光部門]受賞)

広大な緑に囲まれた歴史と世界遺産の町、奈良。
静かな闇に包まれた古都の夜に
夏の間、ロウソクの灯が華やかに揺れる10日間がある。
今や70万人を超える人々が訪れる奈良の一大イベントだ。

DATA

【自治体名】奈良県奈良市
(人口369,243人)

【主催団体】NPO法人「なら燈花会の会」

【開催日】平成18年8月6日(日)～15日(火)

【開催場所】奈良市内7会場

【観客動員数】702,000人



1300年の歴史と自然が調和する古都、奈良にふさわしい幽玄なイベント「なら燈花会」。

奈良市制100年と世界遺産登録を機に、平成11年にスタートした。初年度の観光客は17万人だったが、年々評判を呼び、イベントは拡大。平成16年には延べ70万人を超える観客が訪れた。

8年目の平成18年は東大寺大仏殿を目の前にした「春日野園地」をはじめ、「興福寺」「浮見堂」「浮雲園地」「浅茅ヶ原」「奈良国立博物館」「猿沢池と五十二段」という7会場を中心に10日間、2万灯のロウソクを灯す催しが続いた。

最近とはくに若い人たちがイベントに多く訪れるという。何万個もの炎のひとつひとつが風にゆらめく光景は、電気の光に慣れた若者たちにとっても不思議な魅力があるようだ。

広大な自然に囲まれた夜の闇の中

「なら燈花会の会」会長、山本源生さん。使用済ロウソクのリサイクルなどにも取り組んでいる。



を、ロウソクの薄明かりだけをたよりに歩く。「ロマンチックでヒューマンな気持ちを取り戻す夜」の始まりだ。

イベントを支える多くのボランティア

「なら燈花会」は大規模な市民ボランティアの手で運営されている。

一口にボランティアといっても、関わり方には3つの形態があり、誰もがそれぞれの立場で自分なりの参加ができるシステムになっている。

まず、イベントの企画、実行・広報活動など、運営の中心になっているのはNPO法人「なら燈花会の会」。百数十名の会員が、年会費を払い登録している。彼らは仕事の合間や休日を利用して、イベントが始まる何カ月も前からそれぞれが自分の担当に応じて奮闘する。中心メンバーは「大変だが、奈良県人としての誇りがあるから続けている」と話す。

次に、夏の思い出作りのひとつとして、気軽に参加してみようという人には、「当日サポーター」制度がある。イベント当日に集まってロウソクの点灯、消灯、片づけをする人々が毎日200人以上参加する。

さらに、もっとも気軽な参加形態が「一客一燈」。これは協賛金の形で500円を支払い、決められた場所に、自分のためのロウソクを一灯だけ灯すというもの。観光の記念に一灯を灯し記念写真を撮る人、誰か

へのプレゼントに灯す人、特別な願いを込める人などその動機もさまざまである。

「中でもとくに重要なのが『当日サポーター』を集めることです。『当日サポーター』が十分にいないければ何万個という数のロウソクを点灯することはできません。」というのは「なら燈花会の会」会長の山本源生さん。

「なら燈花会」を自分たちが支えているという意識が育って、ボランティア制度がよく機能しているのが成功の鍵でしょうね。『当日サポーター』も、市内外から毎年参加する、熱心なリピーターがたくさんいるんですよ」。

屋台を出さず、酒を出さず、地域の特徴を生かして

規模の大きさにも関わらず、会場は不思議に静かで、厳肅な雰囲気さえ漂っている。会場には大声を出して騒ぐ酔客がいない。会場では酒が一切売られていないのだ。また祭につきものの屋台も極端に少なく、花火などのアトラクションも行われていない。

「酒を売るようになったらイベントの雰囲気も変わってしまうと思います」と山本会長。

「地域活性化のための祭は、その地域の特色を生かすのがいちばん。他のところで成功したものを真似て



1228『当日サポーター』は赤いTシャツの会員の指示に従い、配置されたロウソクに点火していく。夕闇が会場を包むころ、ようやく全部に点火が終わる。子どもから学生、大人が一丸となる瞬間だ。4仕事の前に弁当を食べながら打ち合わせ。消火片づけまで責任を持つ

も仕方ない。奈良の特色は、歴史的遺産に恵まれた場所があるということに尽きます」。

会場となっている奈良公園一帯は、世界遺産でもあり、いわば奈良県民の心の聖域とも言える場所。この場所の価値を見つめ直し、最大限に生かしていることが、このイベントが今も成長を続けている要因なのだ。また、イベントの核は、多くのサ

ポーターとともにたくさんの方々の口を灯すという単純なこと。その本質を忘れずに、あれこれ広げすぎずシンプルな形で引き継いでいくところに継続の秘訣があると山本会長は考えている。

「東大寺のお水取りは1200年続いています。『なら燈花会』も、長く続いて市民が誇りに思えるイベントに育っていけば、と願っています」。



5

5メイン会場の春日野園地。大仏殿の屋根が正面に見える6「一客一燈」を申し込むブース。各会場に専用の場所が設置されている7浮見堂の会場。鵜池(さぎいけ)の水面に灯が映り、昼間の風景とはまた違う魅力が浮かび上がる8浅茅ヶ原の会場。竹で立体を組み、そこを灯りで彩る。奈良の中心街にこのような会場が7カ所。ゆっくりと歩いて見回ることができる



6



7



8

特集

2

キーパーソンに 訊く

「地域づくりは人づくり」とよく言われます。イベントにも、それに携わる熱い思いをもった「人」が不可欠。どの地域にも、ふるさとを思い、そこに住む人を楽しませたいと考える人がいます。

ここでは、4つのイベントを通じて、そうした人々が抱くイベントへの思い、地域への思いを語っていただきました。



テーマ1 若者は地域の宝

正岡子規を生み、夏目漱石の「坊っちゃん」や司馬遼太郎の「坂の上の雲」といった文学の土壌に恵まれた愛媛県松山市。ここでは、毎年8月に高校生たちによる言葉の熱戦が繰り広げられる。その名も「俳句甲子園」。俳句で自らを表現することに魅せられた若者たちが、今、このイベントを支えている。



「俳句甲子園」から生まれた大切な仲間。全国の高校生にこの絆を感じて欲しい。「松山で待ってよ〜」

俳句って古くさい!?! そんな概念を吹き飛ばす 高校生たちの熱き言葉のバトル

愛媛県松山市 松山「俳句甲子園」

第6回・優秀賞受賞



1

2

1 松山が生んだ俳聖・正岡子規に関する資料を展示する「子規記念博物館」。正面には季節に応じた子規の俳句が掲げられる。「夏休み来るべく君を待まうけ」2 松山市内では、いたるところに俳句ポストが設けられている。道後温泉を訪れた観光客も湯上りに一句詠むことができる

森川大和さん 愛光高校（愛媛県）出身。高校の国語教師として、生徒に言葉の素晴らしさを伝えている



福田香奈さん 愛媛県立伯方高校出身。松山市内の夏井いづき氏の事務所まで俳句に関わる仕事をしている



「俳句甲子園」が始まったのは、平成10年。今では全国に多くの卒業生がいる。中には、「俳句甲子園」に出場したことによって、俳句の世界にはまり込み、現在もこのイベントの運営スタッフとして中心的役割を果たしているメンバーがいる。今回は、そんな5人の若者に話を聞いた。

俳句と関わることになったきっかけと俳句の一番の魅力は？

森川 中学生の時、このイベントの発起人でもある夏井いづきさんの授業を受けて、そのとき初めて俳句に触れました。夏井さんの人間性が面白いと感じたこともあるし、高校一年の時「俳句甲子園」で準優勝してから、優勝できなかった悔しさから市内の句会に参加したりして、どんなにまっすぐにいきました。俳句の魅力は、常に新しい壁に挑戦できること。上手くできたと思っても、またすぐに次の壁がある。それを乗り越えて自分の言いたいことを上手く表現できた時の快感がいんだと思う。



❸ 初日の予選は、大街道商店街で行われる。買い物帰りのお客さんふと立ち止まって「あの句の季語は何か」と考え込む。まさに地域住民の言葉への関心を高める仕掛けとなっている❹ 審査員は赤白の旗で判定。夏井いつき氏(中央)は、このイベントの仕掛け人でもある。「年々、確実に俳句のレベルは上がっている」と言う



特集2 キーパーソンに

訊く

俳句甲子園

愛媛県松山市

平成10年、(社)松山青年会議所が地元の俳句関係者とボランティアの協力のもとで開始した。今では選手経験者である全国のOB・OGを中心とした俳句甲子園実行委員会が発足。全国的なネットワークづくりに取り組んでいる。

試合形式は、5人編成の2チームが赤白に分かれて対戦する。それぞれのチームの句を披露した後、相手チームの句に対するディベートを行い、俳句の創作力とディベートによる鑑賞力を合わせて審査員が勝敗を決定する。平成18年(第9回)は、全国25都道府県から36チームが参加した。



DATA

【自治体名】愛媛県松山市

(人口514,018人)

【主催団体】(社)松山青年会議所

【開催日】平成18年8月19日(土)~20日(日)

【開催場所】松山市大街道商店街
および愛媛県武道館

【観客動員数】26,000人

神野紗希さん 愛媛県立松山東高校出身。現在NHK-BS2の俳句関連番組「俳句王国」の司会を担当



酒井俊祐さん 開成高校(東京都)出身。「俳句甲子園」の時期には毎年東京から松山にかけつける

佐藤「私も、夏井さんに俳句を教えてもらったことがきっかけ。いつきさんの教え方が上手くて俳句にはまって、高校入試の時には「俳句甲子園に出たいからこの高校に入りたいんです!」って面接で言ってしまうほどになってました。

酒井「僕は、東京の高校で先生から「俳句甲子園」に出ることを進められたことがきっかけ。最初は、俳句なんてと思ってたけどやってみると面白くて、何よりも自分を表現するためのツールとして俳句が自分には合ってたんだと思う。17文字という短い中にいろいろなものを含めたいといけないうし、限られた枠の中にいかに思いをはめるかっていうことに楽しさがあると思うな。

神野「私は、高校の時放送部に入っていてその取材で「俳句甲子園」に来たんです。実はその時の出場者にすごくかっこいい人がいて…。その人に会うために来年は「俳句甲子園」に出よう!と思ったんですよ

福田「私は、「俳句甲子園」に出た(笑)。今から思うとそれが俳句に関わるきっかけかな。でも今は俳句のおかげで自分の世界が豊かになったなと感じるんです。俳句には季語があるから自ずと季節に敏感になる。当たり前のように見ている景色の中で季節の移り変わりや自然の偉大さを感じる事が多くて、いろんなものがキラキラして見える。でも、本当の俳句の魅力ってまだ分からないというのが本音。だからそれが分かるまでは、俳句を続けていこうと思いますね。

佐藤文香さん 愛媛県立松山東高校出身。早稲田大学で学びながら俳句漬けの毎日を送っている





5人の力で勝ち取った優勝。思わず涙を見せるメンバーも。

みんなが本気で笑い、泣き、喜び合える そんな場をこれからも作っていききたい

ことがぎっかけです。高校を卒業して俳句から離れていたんだけど、大学で夏井さんの授業に出て、やっぱり俳句をもう一度やってみようかなと思った。私にとっての俳句の魅力は、俳句そのものよりもこれをきっかけにいろんな人に出会えること。この5人のメンバーだって俳句が無かったら絶対に知り合えないし、私にとっては宝物のような存在です。

松山には、言葉への特別な感情があると思いますか？

佐藤—松山ってもともと言葉への関心が高いんじゃないかと思う。私は小学生の時、兵庫からこっちに引っ越してきたんだけど、宿題で俳句を作りましうなんて言うのがあったりしてびっくりした。

福田—そうそう、みんなが俳句慣れしてるっていうのはあるよね。

森川—僕は高校の教師をしていて、松山の高校生だからといって言葉に対する意識は必ずしも高くないと思うし、言葉が乱れていることは否めない。でも、松山には言葉に敏感でセンスのよい人がたくさんいて、そういう人にいつでも触れられる機会がある。だからいざ俳句をつくとなるとスウィッチが切り替わる子が多いんじゃないのかな。

酒井—僕は東京と比較して、このまちには人にも土地にもまち自体にも余裕があって、ギシギシとつめこまない風土があると思う。だからこ



5 敗者復活から勝ち上がった熊本信愛女学院高校。対戦相手からの鋭い指摘にも巧みな切り返しを見せる6 松山東高の安部拓朗君(左端)は選手宣誓で「俳句の裾野を広げ、その頂を高く高くすることを誓います」と宣言した

そ、俳句という別に無くても生きていけるものを生み出す力があるんじゃないかな。

神野—確かに俳句は作る側も鑑賞する側も、おらかな気持ちが無いとだめ。松山城を中心にした分かりやすい地形とか温暖な気候とか、松山にはそういう風土が備わっているのかもしれない。そういう意味では「嵐」の句とかは松山では作りにくいのかな。

このイベントのこれから?

神野—このイベントは、ふだんあまり感じる事のない「悔しい」という感情が生まれるイベントだと思う。それは、本気で俳句に取り組んで、勝負に挑むから。そうやって俳句に集中している間に高校生に何かの灯をともしお手伝いができればと思う。それは、自分たちが先の代から受けてきたことをこれからの参加者に返していくことだから。

森川—僕も本当に悔しい思いをしたからなあ。でも、悔しい思いから何かを持って帰ることのできるイベントはすごい。真実に近いパワーがあるからこそこのイベントも熱くなるんだと思うよ。

酒井—僕は今回優勝したメンバーの



決勝戦が行われた愛媛県武道館。豊かな自然に恵まれた松山でこそ言葉にこだわるこのイベントが生まれた。

お母さんから「娘がこんなにすばらしいイベントに関われることは本当に光栄。ありがとうございます」と言われた。その言葉を聞いて、このイベントはそんなに輝きを放てるものなんだと実感した。逆に言えば、高校3年間しか出られないからこそ輝けるんだと思う。これから、高校生が本気で笑い、泣き、喜び合える場を提供していきたいし、このイベントで感じるわくわくした気持ちを全国の高校生に知って欲しい。独り占めするのはもったいないくらい楽しいから。

福田—全国に広めていきたいというのは強く感じますね。そのためには、地方大会をもっと充実させて質を上げていく必要があると思う。それには、全国でこのイベントを支えてくれるボランティアのみんなを育てていくことが大切だと思います。

全国の高校生へ一言

酒井—叫ぶ場があるなら「何でもいいからここに来い!」って言いたい。高校生活の中でこのイベントに触れられるというのは素晴らしいこと。教室の中で学べないことがたくさん学べる場だと思う。

神野—言葉って実はすごいんだよ。同じように「元氣だしなよ」って励ます言葉でも、ただ言葉に出すだけとその人が何で悩んでいるのかその思いを共有しながらかける言葉では伝わり方が全然違う。そういうパワ

ーを秘めた言葉の魅力を感じて欲しい。

森川—このイベントに参加するみんなには、あくまでも勝ちにこだわれないと言いたい。参加することや俳句をやることに意義があるのではなく、やっぱり勝つことにこだわるのが大事。そこから本気で俳句に打ち込むことができるから。

佐藤—そう、勝つためにどうしたら良いかを考えることが大事。例えば高校生だから「教室」とか「黒板」とかいった言葉が入っている方が良いという考えがあるかもしれないけど、もうそんな幼稚さは求められないし、卒なく落ち度なく作られたものも要らない。それよりは、少しくらい破綻があっても力のある句、輝く句を作ることによって一生懸命になって欲しいと思いますね。

福田—私は、ここに世界を広げに来て欲しい。俳句なんてちょっと年上の人が楽しむ趣味と思ってるかもしれないけど、実は恋愛のことも学校生活のことも詠める。高校生活は本当にいろんなことがやれる時期だから、その中の一つに俳句を入れて欲しいなと思う。だって、私自身こんなに俳句にはまると思ってたかったですから。

全員—そうそう! だれもこんなにはまると思わなかった。まずは一句作ってみて!!



17 今年の決勝戦は、大将戦(5句勝負の最終句)までもつれ込む、白熱した戦いとなった18 第9回の優勝旗はイベント開始以来初の九州勢に渡った



特集2 キーパーソンに

訊く



テーマ2 一人の想いが地域を変える

高松市から車で約30分の香川県三木町。実に豊かな田園地帯。この地では、獅子を地域の神社に奉納することが根付いている。その獅子舞たちが年に一度すべて集まるイベントがある。大小45チームの獅子舞が乱舞する、「獅子舞フェスタ」。このイベントは、一人の熱い男の思いが地域を動かして実現したものだ。



串田茂樹さん 町職員の仕事のかたわら、4年の歳月をかけ、手づくりで氷上八幡神社の大獅子を完成させた。

息子のため、ふるさとのため 町職員が起こした小さな奇跡

香川県三木町 第15回獅子舞フェスタ

第10回・部門賞[祭り・スポーツ部門]受賞

「なんちゃ買えんのう（なんにも買えないね）。全ては当時3歳だった息子の真悟くんが発した寂しそうな一言から始まった。」

三木町の秋祭りには周辺集落が交代で奴行列をだす習慣がある。昭和62年、地元「氷上八幡神社」の奴行列に息子とともに参加した串田茂樹さんは、出店者もなく参加者もまばらな寂しい行事を目の当たりにすることになる。屋台の出店を楽しむにしていた息子の言葉。地域がこのまま廃れてしまうのではないかとという焦り。獅子頭を制作するために、4年間、延べ2000時間を費やすこととなった制作エネルギーはここから生まれた。

まったくの素人と伺ったのですが？

「ほんとにまったくの素人です。いろんなことを参考にしました。各地の獅子舞はもちろん、神社の狛犬を見に行ったり。ちょうど作業場に住みつきだした捨て猫のキバを参考にしたり。あれも何かの縁じゃなかったかと。」

当初、設計図のようなものがあつたんですが、造っていくうちにちょっと小さいかなと感じて。どんどん変更していくことになりました。そのうち、設計図も見えないで、思いつきで制作していきました。

どんなもので作ってあるんですか？

父が野菜をつくる時に使ってい

た、トンネル栽培の骨材を骨組みにして、その上に蚊帳を張って、壁に使うクロスや障子紙、和紙を貼り合わせています。アミノールという糊を水で薄めてミキサーで溶いてね。

15年を振り返ると

感慨深いのでは？

「最初は15年も続くとは……。2、3年で終わると思っていました。立派なステージができて、ゲスト獅子が全国から来て。交流も図りながらやっている。で、皆さんに喜んでいただくと。駐車場のスタッフなど影で協力してくださってる皆さんにも頭がさがります。」

獅子頭を作り始めた時は、地元神社の秋祭りで奉納しようとしたか考えてなかったんです（※注1）。それがちやうど、三木町の「顔づくり事業推進協議会」で取り上げられ、「獅子舞フェスタ」というイベントを立ち上げて町の顔として広くアピールしようというふうに盛り上がっていききました。

串田さんは、役場の職員でもあるわけですが、職員としてイベント立ち上げに携わっておられたのですか？

「いえ、その時は、有線・水道課という課にいました。」

担当職員として、獅子舞フェスタに携わったことは一度もありません。ただ、町内をくまなくまわる現

※注1 三木町にはすでに2頭の大獅子と53頭の小獅子が地域の神社に奉納されていた。



1 大獅子の競演。手前は、天野神社の大獅子。奥が、氷上八幡神社の大獅子。一つの大獅子を担ぐ人は30人を超える2 氷上八幡神社の大獅子を地域の専用収納庫から運び出す。この時には、油単(ゆたん)はまだつながっていない3 三木町内のみならず、全国からのゲスト獅子も舞う4 平成16年よりスタートした「獅子舞フェスタ」に合わせ、4つのイベントが同時に開催されている。「三木活き生きふれあいまつり」と名づけられ、あらゆる世代が、まさに活き生きと参加している

獅子舞フェスタ

香川県三木町

串田さんの作成した大獅子は4年の歳月をかけ、平成3年8月に完成した。その年の秋祭りに氷上八幡神社に奉納された大獅子は多くの参拝客から好評を得た。同時期に三木町に設置された「三木町の顔づくり事業推進協議会」でも関心を引き、町内の獅子舞を見つめ直すきっかけとなった。協議会は同年12月に「獅子舞フェスタ」の開催を町長に答申した。

答申を受け、実行委員会が結成され、平成4年9月に第1回「獅子舞フェスタ」が開催となった。当初は1回限りの開催予定であったが、観客、参加者双方から好評を博し、継続実施が決定した。第1回の参加獅子連は55連、観客は7,000人であったが、第15回では、参加獅子連45連、観客数は30,000人となっている。

DATA

【自治体名】	香川県三木町(人口29,468人)
【主催団体】	活き生きふれあいまつり実行委員会
【開催日】	平成18年9月23日(土)
【開催場所】	三木町総合運動公園
【観客動員数】	30,000人



一気に制作されたんですか？
— 4年間がかかったんですが、やり始めてからというもの、土日はもちろん作業、平日も仕事が遅くなった日もやっていましたね。4年間は子どもをどこにも連れていけないで、背中を見て育ってもらった感じです。

場仕事だったことで三木町のいいところ、足りないところが見えていたのかもしれない。
息子の「なんちゃ買えん」という寂しい言葉や、その翌年には瀬戸大橋が開通する年だったんで、ますます町が寂れていくんかという危機感から始めました。とにかく熱意だけで、地元では「ほっこう」って言うんですが、熱中するとかのぼせもんの意味ですけど、自分もそうなっていました。寝ても、いいアイデアが浮かんだら、寝まぎのまま作業場に行つて、ストーブつけて。朝までなんて日もしょっちゅうでした。

だんだん串田さんが特別な町職員に見えてくるのですが？

— そんなことないですよ。自分では、普通の話かけやすい役場職員だと思います（笑）。特に変わった職員でもないですし。

そんな「普通の町職員」串田さんから、全国で町おこしをしようとしている方にメッセージを。

— メッセージとか言われると照れるのですが、やり遂げるためには、やはりやる気があるかないか。途中で

土日はもちろん、平日も遅くまで作業 4年をかけてとうとう完成



5 大獅子の制作風景。地域の人の協力もあった。材料には、障子紙、和紙のほかに、壁のクロスまで使われた。厚さは5cmを超える6 油単（ゆたん）は、地元出身の京友禅作家、林田清龍氏が無償で制作し、地域の人が縫製し完成した7 大獅子の完成は地域の人の新たな誇りを生んだ

三木町文化交流プラザの緞帳。三木町が誇る3大獅子が描かれている。その壮観な刺繍は圧巻の一言



踏みとどまって考えていたらできないと思います。私も、片側の車線を占領するような獅子を制作したら非難されるのはわかっていました。でも、とにかくやるんだと。完成直前になって地域の役員さん、長老さんをお願いに回りました。思いが通じ、皆さん応援にまわってくれました。今、全国どこの地域も厳しい状況ですが、頑張っていきましょう！

特集2 キーパーソンに

訊く

息子の真悟さんに伺います。学生時代、四国から離れていたそうですが、やはり獅子舞は気になりましたか？

— やっぱり気になりましたね。獅子舞の時期には、実家に電話したり。地元に戻りたくなったり。

お父さんの大獅子は完成してだいぶ時間がたちますけど、2代目の大獅子をつくるお気持ちはありますか？

— いやあ（笑）とても、とても。修理は頑張っていきたいと思っていますけど。

お父さんと大獅子の前に並んでみてどうですか？

— とても、照れくさいですけど、ちょっと誇らしい感じもありますね。



串田茂樹さんと長男の真悟さん。制作時、4歳だった真悟さんも22歳となった。



「立山に降り置ける雪を常夏に見れども飽かず神からならし」立山のアマリの美しさを「神の山」と詠んだ大伴家持。彼が国守として赴任していた富山県高岡市には多くの万葉歌が残る。そして、ここでは4500首以上にのぼる万葉歌を三昼夜かけて詠み続けるという壮大なイベントがある。このイベントを支えるのは市内で活動する多くのボランティアたちだ。



全国から万葉ファンが集う 個性あふれるイベント

富山県高岡市 **万葉集全20巻朗唱の会**

第1回・大賞受賞



古代の衣装に身を包み、舞台へと向かう出演者。子どもたちもたくさん参加する。上手く詠めるかドキドキ。

「万葉集全20巻朗唱の会」と名付けられたこのイベント。全国から集まった2000人以上の万葉ファンが、当時の衣装に身を包み、全4516首を代わる代わる詠み上げる。今年で17回目を迎え、今や高岡の秋の風物詩となっている。そしてこのイベントの大きな原動力となっているのが、毎年イベントのために組織される市民ボランティア「万葉集全20巻朗唱の会へいざなう会」。今回は会長の玉井晶夫さんに話を聞いた。

高岡ではもともと市民活動が活発なんでしょうか

——いえいえ。もともと、高岡はわりと閉鎖的で、市民が積極的に何かをやるうという気概があるようなところではありませんでした。そこで、市制100周年の記念行事を企画した時、いわゆる市民参加型のイベントをやれないかと考えたんです。誰もが、できることをやれば良い。舞台に出るのが恥ずかしいと言う人は裏方で支えてもらえば良いし、着物の着付けができる人は衣装係をしてもらえば良いと。そして「万葉夢幻譚」という野外劇を開催し、1500人の市民が参加しました。

それが、起爆剤になったということですか

——はい。私は、この活動がそれまで表に出てこなかった市民の心に火をつけたと思っています。せっかくの

万葉の歌をひびかせること 夢はイタリアの空に



1 真夜中になっても朗唱は続く。闇の中に水上舞台が浮かび上がる 2 3 万葉の恋歌を現代の口語に訳した短冊や、幻想的な雰囲気を醸し出す「燈火の路」など周辺イベントもたくさん



市民参加の場を一度きりで終わらせることなく、継続していけないかということになりました。当時、市が「万葉のふるさとづくり」を進めていたこともあって、万葉集を全巻詠みあげるといふこのイベントが始まったんです。

万葉集を全巻詠みあげるといふのは、奇抜な発想ですよ

よく、こんなばかばかしい事をと思うでしょう（笑）。このイベントは、ただ万葉集をひたすら詠み続けるという、何も特別なことはないイベントです。でも、だからこそ全国でここにしかないイベントになり得ているんだと思うんですよ。そして幼稚園児から高齢者まで、とにかく誰もが気軽に参加できるというのが良いところ。特に練習がいるわけ

玉井晶夫会長「今では、約4000人のボランティアがいます。中でも、元氣な女性が多くて僕はタジタジです（笑）。でも、みんなこのイベントのために高岡を訪れてくれる人をどうやってもてなそうかと真剣に考えている。嬉しいことですよね」

もないし、特技が必要なのでもありません。それでも人前で自分を見せることができる。参加者の中には、「今までになかった自己表現の場ができた」という方が多いです。

舞台上朗唱を終えた方々の表情は、興奮冷めやらぬといった様子ですね

—そうなんです。そして、一度その快感を感じた人は、翌年からイベントを支える側にもなってくれます。だんだんと万葉を核にして人の輪が広がっていつているということでしょうね。また、このイベントには多くの企業から協賛をいただいています。やはり地域にある企業が社会参加・地域貢献をするということとは、これからの企業のあり方としてとても重要なことだと感じています。





4 ボランティアの一人、杉山喜重子さん。当日は高岡市内に残る万葉ゆかりの地を訪ねる「万葉故地めぐりツアー」でガイドを勤める。高岡のことなら何でも知っているのでは!?と思わせるほどの流暢なガイド振り 5 6 万葉の味を復元した「万葉遊楽(はやし)御膳」。市内で料亭を営む松本美代子さん(左)らが中心となって試行錯誤の上に完成した

「万葉集全20巻朗唱の会へいざなう会」について、教えてください

—この会は、普段高岡市内でさまざまに活動している市民団体のネットワーク組織なんです。観光ガイドボランティアや芸能団体など、普段は別々に活動している団体同士が、毎年1回、このイベントのために集まります。もちろん第一の目的はイベントを開催することですが、これまで全く関係性のなかった団体同士が一つの目的に向かって一緒に活動することで、横のつながりができます。お互いが刺激し合えると同時に、人と人とのつながりができます。協力し合えることがあれば一緒に何かを始めたりと、より層の厚い活動ができるようになってきています。それが、この会を組織している一番の効果じゃないかと思っています。

それにしても、三昼夜続けるというのは大変ですね。

—やはり、スタッフのローテーションが大変ですね。最初は、私も三日三晩通して働いていたりましたよ。でも、最近はだんだんとこのイベントに共感してもらう人が増えてきて、個人でボランティア参加する人もいますから、ローテーションも組みやすくなってきましたね。それに最近はこの活動に参加したいというシルバー世代も多いですからね。そうした人たちの社会参加の場

万葉集全20巻朗唱の会

富山県高岡市

万葉集の編者の一人と言われる大伴家持が国守として赴任していた富山県高岡市では「万葉のふるさとづくり」を進めている。その中心をなすイベントとして平成2年から開催。三昼夜をかけて全4,516首を詠み上げる。朗唱のほかに、観光ボランティアとともに万葉のゆかりのある地をめぐるツアーや当時の味を復元したお弁当「万葉遊楽御膳」の販売、万葉銘菓の即売、夜にランタンで会場を照らす「燈火の路」など、さまざまな周辺イベントを行っている。

DATA

【自治体名】	富山県高岡市 (人口182,408人)
【主催団体】	高岡万葉まつり実行委員会
【開催日】	平成18年10月6日(金)～8日(日)
【開催場所】	高岡古城公園内 (中の島特設水上舞台)
【観客動員数】	80,000人

—はい。実は、今年から「越の国万葉コーナー」というものを設けています。これは、大伴家持が越中国守として国内巡業に出かけた時に、それぞれの地で詠んだ歌を、現在その地域に暮らす人たちに来ていただきたい朗唱していただくコーナーです。今年は、富山県富山市や魚津市、射



受付でも多くのボランティアがてきぱきと働いている

水市、氷見市、石川県羽咋市や七尾市、輪島市から来ていただきました。家持の縁で、高岡だけでなく周辺の多くの市と市民レベルでの交流ができればと思っています。今後もだんだんと来ていただく市を増やしていきたいですね。それと、イベントのメインである朗唱は第1回から変わりますが、そのほかに夜のあかりのイベントや万葉の時代の味を復元したお弁当など、周辺イベントを増やしてきています。「いつ行っても何か新しいものがある」と思っているだけのようにしたいですね。

—そうですね。まだまだ仕掛けていこうと思います。ただ、私の究極の夢はこのイベントを海外でやりたいんです。壮大な夢ですが、個人的にはローマの円形劇場(コロッセオ)で、芸術があふれるイタリアの空に万葉の歌を響かせたいですね。考えただけでもワクワクするでしょう?

どんどん発想が膨らんでいきますね



畑儀文さん 「シューベルティアーデたんば」を主宰する、地元出身のテノール声楽家。熱い思いが伝わってくる



黒豆や大納言小豆で有名な丹波地域篠山市・丹波市。ここには、新しい秋の風物詩がある。ホールはもちろん、公園や神社、酒蔵、古民家、美術館など街角のいたるところでシューベルトにちなんだコンサートが開催される。平成18年は、計26カ所で開催された。音楽が持つ、人をひきつけ地域をつなげる力に改めて驚いた人。それは、自ら立ち上げに動いた地元出身の声楽家だった。

あるがんでやろうや!

兵庫県篠山市・丹波市

丹波の森国際音楽祭 シューベルティアーデたんば 2006(第12回)

第9回・部門賞[文化・交流部門]受賞

— 最初、地元の友達を集めて、日本中の音楽祭のポスターを部屋中にべたべた貼って、こんな音楽祭を丹波でやりたいと訴えました。たまたま、

一人で始めようと思ったのですか?

36歳の時にヨーロッパへ渡った地元出身のテノール声楽家、畑儀文さんは、今後の音楽家としての方向性をシューベルトに見出し出していた。偶然新聞で目にしたシューベルトの出身地「ウィーンの森」と自らの出身地「丹波の森」の姉妹提携。偶然だった出会いは、必然だったように畑さんを地元へ導いた。

12回目を迎える平成18年の「シューベルティアーデたんば」は、丹波地域(篠山市・丹波市) 26カ所の街角、学校、ホールなどで開催された。驚くほどの低予算で運営されるこの音楽祭は、全国の音楽祭の成功モデルとなりつつある。



1 座席には座布団も使用し、くだけた雰囲気でも鑑賞できる。シューベルトの音楽が身近なものとなっていた2 会場運営は地元のボランティアスタッフ。12回の歴史で、それぞれの役割分担もきちんとできている

— 普通、こういったイベントには音楽事務所が入るものなんですけど、

スタート時の苦労や、失敗したことはありませんか?

— 今でも、玄人なんていないですけど(笑)。今でこそ丹波の森公苑で事務局おいていただけてますけど、当時はもちろんなくて。最初の打合せで、20人くらいで鍋囲みながら話してたんですけど、「お前がやりたいのはわかるけど、事務方を誰がやるん」と。そんなところからのスタートでした。結局、当時の県民局長がうまくスキームつくってくれました。3年は県も支援すると言っていたので。

素人だけで始めたと言いましたが?

丹波の森公苑の整備が決定したときでもあったんですが、仲間も賛同してくれました。

Saxophone



関西在住のプロ演奏家によるハイレベルなコンサート。地方の観客にとってはなかなか鑑賞することができない貴重な機会。手づくりならではの暖かい空間に、演奏者からものびのび演奏できると好評を博している。毎年訪れる演奏者も。

特集2 キーパーソンに

訊く

丹波の森国際音楽祭 シューベルティアードたんば

兵庫県篠山市・丹波市

人と自然と文化が調和した「丹波の森構想」が進められていた丹波地域（篠山市・丹波市）と、シューベルトの音楽を核とした活動を通じ丹波を音楽の森にと考えていた地元出身の音楽家畑儀文さんの構想が合致、平成7年に「第1回丹波の森国際音楽祭シューベルティアードたんば」が開催。音楽を身近に触れられるよう既成概念にとらわれないあらゆる場所でコンサートが開かれる。平成18年は2カ月を超える長期開催で、会場は26カ所にのびた。圏域外での協賛コンサート、JR福知山線でのシューベルティアード号の運行など、新たな展開がひろがっている。

DATA

【自治体名】兵庫県篠山市・丹波市
（人口 篠山市 46,375人・丹波市 72,419人）
【主催団体】丹波の森国際音楽祭
シューベルティアードたんば実行委員会
【開催日】平成18年9月2日（土）～11月12日（日）
【開催場所】丹波の森公苑ホール 他
【観客動員数】7,062人

我々は、みんな自分たちでやりました。それで、第1回目は失敗もありました。チケットたくさん売ることが成功したんですけど、出演料もよくわからぬままヨーロッパから招聘したりしたんで、結局100万くらいの赤字がでたり（苦笑）。
それからもういろいろありましたよ。でも、絶対やるぞ。これしかないですね。やめてなるものか、そしてけんかしてなるものかと。やっぱりけんかしたらだめですね。他でもよく聞いてました。けんかしてだめになった話。やっぱり音楽家って個性強い人多いんですから。私もこうみえて血の気多いんですよ。性格よく知ってる友人からは「おまえがほんとよくやってるな」って言われます（笑）。スタッフ同士の意見の板ばさみにあったこともあります。でも思いやりじゃないですか。「思いやり」。スタッフ、演奏者、そしてお客さんへの思いやり。みんなにそれがあつ

たから、今までなんとか続いているんじゃないですかねえ。
第1回からすでに街角コンサートも実施されていたそうですが、その担い手は？
— スタッフは篠山のたんば田園交響ホールのボランティアスタッフをしている人や地元で頑張っている人たちが中心になって各会場を仕切っていただきました。そういう人がいないところでは、一本釣りで声をかけました。こういう地域ですから、いろんな耳寄り情報があります。「あの人が頼んだら、みんな動くで」とか「あの人がやり手やで」とか。そういうのも地域の財産ですよ。演奏者のほうは、自分が全部出演してました。なにしろ、予算が少ないですから。伴奏もいなかったんで、自分でピアノ弾いて、弾き語りですわ。おかげでピアノうまくまりましたよ（笑）。



平成14年のフランツ 西本淳さん

岡山県出身のサクソフォン奏者
「なかなかここまで、地域と一体になってい
る音楽イベントって少ないと思うし、僕自身
も入りこんじゃってますね。平成14年に呼
んでもらってから、ほんと家族のような関係
というか、そういうものができています。う～
ん、もう、外からの視点じゃ見れなくなっ
てますね。」

持続可能なイベントモデルがここにある

このイベントには、毎年「今年のフラン
ツ」という役割の方がいますよね？

続けていく中でのこだわりはありま
すか？

—そうなんです。4、5年目くらい
から、実行委員さんから「畑まかせ
ではいけない」という声が上がって、
街角コンサートには出ないようにな
りました。フランツもその延長で、
演奏者の立場から全体を見てくれる
人が必要だろうと考えて6年前から
始めました。毎年違う音楽家をフラ
ンツとしてこのイベントに招いて、
メインアーティストとして、一番多
くの会場で演奏してもらっています。
フランツには、もうひとつ大きな
な目的もあって、関西の優秀な音楽
家、埋もれてる人をひっぱりあげた
い思いもあるんですよ。

—徹底して地元をこだわってきまし
た。地元というのは、二つの意味が
あるんです。一つは丹波、そして、
もう一つは関西です。関西というこ
だわりもとても大事なことで、いい
音楽家が埋もれてるんですよ。
それと、ここ数年われわれの合言
葉みたいな言葉があるんです。「あ
るがんでやろう」と。丹波弁で意味
は「〇〇ほどでやろうよ」ってこと
なんですけど。今あたえられた予算
の範囲内で決して無理してはやらな
いようにしています。こうしたイベ
ントってついつい大きな花火を打ち

上げがちですけどそれ一発で続かな
い、それだと最悪じゃないですか。
もちろん、できる範囲と言いな
がら、チャレンジしないわけじゃない
ですよ。その範囲で皆さんいっぱい
いっぱい、頑張るわけですよ。
では、今後の理想はありますか？

—地元の方でも「シューベルティアー
デたんば」にいまだ足を運んでいな
い方がまだまだ多いので……。でも、
やとと丹波の秋の風物詩になり始め
てるんだと思っています。「今年はい
つかからですか」って聞かれることが、
挨拶がわりになってきましたから。
先は長いですよ。京都の時代祭とか、
やっぱりあそこまで行きたいです
ね。

でも、単にビックアーティストが
出る音楽祭。そんなの狙ってないで
す。オーストリアで開かれる「シュ
ーベルティアーデ」も、以前は「シュ
ーベルティアーデ・フェルトキルヒ」
って、ちゃんと町の名前もついてた
んですけど、今は開催場所も変わっ
たせいか、取れてしまったんです。
とても大きな音楽祭になっただけ
なんですけど。ちょっと寂しいこと
ですよ。それよりも、このイベン
トでは関西のこれからの音楽家た
ちに出演してもらいたいんです。今
回はヨーロッパの若い、まだ学生の
音楽家もオーディションして呼んで
ますけど、そういった方向のほうが、
発展性あるじゃないですか。これか



③演奏者には、会場ごとに特色を活かしたプレゼントも。この
会場では、花束贈呈ならぬ、特産の黒豆束が贈呈された。演
奏者も思わず、顔がほころぶ一瞬④「あるがんでやろうや!」の
精神で先を見据える畑儀文さん



ら、何十年も音楽続けていくなかで、
丹波のことずっと忘れないと思いま
すよ。ビックになって丹波に帰って
きたなんてなるとうれしいですね。

わがまち 自慢の イベント

寄稿

ふるさとを振り返ったとき、そこに自慢できるイベントがあるというのは幸せなことです。今はふるさとを離れている人も、そのイベントの時期には必ず帰るというほどに求心力を持つイベントがあります。

ここでは、3つのイベントの開催者にわがまち自慢のイベントを、それぞれの言葉で綴っていただきました。

江戸幕府 鉄炮組百人隊 出陣の儀

わがまち**自慢**のイベント

1

第4回・選考委員特別賞受賞

将来にわたる
「わが町の誇り」

戦後の復興から高度成長へと向かう昭和36年、新宿区百人町の氏神「皆中稲荷神社」の石川正義宮司を中心に氏子会役員の発意により始まりました。「百人町」の地名の由来となっている「御鉄炮百人組」にちなむイベントを氏神「皆中稲荷神社例大祭」に奉納することを目的としています。名称も「江戸幕府鉄炮組百人隊出陣の儀」として隔年で開催し、平成17年には第23回を数えました。

「百人町」に生まれ育った人たちに、「わが町の誇り」として歴史的・文化的に後世に自慢できるものを伝え残そうとする心意気の一つに結実し、見事に開花した歴史的所産と言えます。

当初、イベントを立ち上げようという構想はあっても、いろいろと乗り越えなければならぬ壁がありました。なにせ幕末の混乱から約100年の時が過ぎており、火縄銃、武器甲冑、装備品などをどのように調達するのか、あるいは財政的な負担をどのように解決するのかという課題が大きいのしかったです。また、「空砲」とはいえ、本物の火縄銃を使用し町内各所にて発砲するわけですから「黒色火薬」の使用が絶対条件となります。関係官庁の理解を得て、それを克服するのが一大仕事でした。

しかし、設立メンバーの並々ならぬ努力と知恵によって打開策を見出し、第1回出陣へとこぎつけることができました。

その後、回を重ねるごとに甲冑等も充実し隊列も増え、騎馬四頭も新たに加わり、また次第に、地元百人町の人たちの協力体制も整ってきましました。一方、新宿区からも注目され始めました。（新宿区の花に制定されている「つつじ」は、もともと百人町の隊士が任務の傍ら内職として栽培したのが始まりで、明治期においては「大久保百人町のつつじ」を見るために臨時列車が出るほど活況を呈したそうです。）

地道な努力で
さまざまな効果が

「鉄炮組百人隊出陣の儀」が今日の隆盛に至ったのはさまざまな要因があります。まずは、実物の火縄銃を使用したイベントは東京では「鉄炮組百人隊出陣の儀」のみであるという一種の物珍しさが先行したことです。そして、もう一つは世界が注目した昭和39年の東京オリンピックを境として、東京の中心がかつての「銀座」から新都心「新宿」に移り、人々の目が注がれ始めた時だったという立地的な要因も見逃せないでしょう。また、「日本の祭りパレード」「大東京祭りパレード」といったイベントに、協賛イベントとして参加させていただいたことや、テレビ、



DATA

- 【自治体名】東京都新宿区(人口275,879人)
- 【主催団体】江戸幕府鉄炮組百人隊保存会
- 【開催日】平成17年9月30日(金)(隔年開催)
- 【開催場所】新宿区百人町一～四丁目一円
- 【観客動員数】40,000人

江戸幕府 鉄炮組百人隊保存会 会長
大浦正夫



新聞、雑誌といった、メディアに取り上げられるようになったことも知名度向上に一役も二役も買ったといえます。

平成12年にふるさとイベント大賞の選考委員特別賞を受けたことにより、「新宿区無形民俗文化財」の登録への動きが生まれ、平成14年に登録を受けました。公的機関から社会的な評価を受けたことによって、住民からもより一層、理解と協力を得ることができ、活動の幅も広がりました。今では、地元住民ならびに新宿区内企業等から有形無形のご協力とご後援をいただくようになっていきます。

以前は総勢150名ほどの鉄砲隊の人集めに大変な苦勞を重ねましたが、こうして知名度が上がってくると共に参加希望者が増え、スタッフ一同嬉しい悲鳴を上げております。また、カメラやビデオ等の映像愛好者にとっては格好の被写体となるよう、火縄銃の発射場所によっては入場規制をさせていただくこともあるほどの観客の方にお越しいただいています。イベントをご覧になった方の中には、ホームページで解説を交えた出陣の模様を全国に配信してくださる方も大勢いて、嬉しい限りです。

その他、イベントを通して地方都市との友好も深めています。近年では、和歌山市における「全国鉄砲まつり」への参加、また平成18年4月

には愛知県岡崎市「家康公行列」に家康所縁の「鉄砲隊」としてご招待をいただき、地方の方々と友好交流を深めてきました。

「ローマは一日にしてならず」。まさに格言の通り、さまざまな方面に地道な努力を続けてきたことで、「鉄砲組百人隊出陣の儀」は首都「東京」においてふるさとらしさを感じることのできる数少ないイベントに成長したと自負しています。



えちごつまり 大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ

わがまち **自慢** のイベント

2

第5回・大賞受賞

「大地の芸術祭」ができるまで

「越後妻有地域」は新潟県の南部に位置し、十日町市（平成17年4月、旧十日町市・川西町・中里村・松代町・松之山町の5市町村が合併）と津南町の2市町からなる面積760km²の中山間地域です。日本有数の豪雪地として知られる一方、豊かで美しい里山などの自然環境に恵まれ、農業と織物業を基幹産業に約7万4千人の人々が暮らしています。経済が右肩上がりの時代が去り、地方が活力を失いつつあった平成6年、この地域でも市町村ごとの地域づくりに限界を感じ始めていました。一方、「平成の大合併」という言葉がまだ無かった当時、新潟県は市町村の自立を目的に広域的な地域づくりの支援を重視し、平成7年に当地域はその指定を受けました。それまで各市町村が別々に行ってきた地域づくりの目標を一つにするため、数多くの議論と検討を重ねた結果、「現代アートと環境」をテーマに、「越後妻有アートネットワークス整備事業」として取り組むことを決めたのです。

今や世界の芸術祭に

この事業は、交流人口の増加、地域の情報発信、地域の活性化を目指しています。そして目的実現のため、「越後妻有8万人ステキ発見」「花の

道」「ステージ整備」「大地の芸術祭」の4つのプロジェクトで事業は構成されています。

「大地の芸術祭」以外の3プロジェクトは平成15年までにすべて終了していますが、「大地の芸術祭」（越後妻有アートトリエンナーレ）は、その成果などを有機的に連携させ、さらに継続発展させていくとするプロジェクトです。

「トリエンナーレ」は、イタリア語で「3年に一度の展覧会」を意味し、この「大地の芸術祭」は2000年（平成12年度）に第1回、2003年（同15年度）に第2回、そして2006年（同18年度）に第3回を開催しました。当初から基本理念に「人間は自然に内包される」を掲げ、自然と人とアートをテーマにし、世界各国から大勢のアーティストが参加、数多くの作品を設置・展開してきました。第3回展では、40の国と地域から203組のアーティストが参加、里山や棚田などに思い思いの作品を展開、既存の約130作品を合わせ330点余りが並ぶ過去最大の規模となり、会期中の50日間約35万人が訪れました。

ただ、このイベントも当初から順風満帆に行われてきたわけではなく、第1回展の開催にあたっては、むしろ強い逆風が吹き続ける状況でした。それは現代アートへの抵抗や反感、また公共事業として適正を欠くとの批判など、住民の多くは反対

DATA

【自治体名】新潟県十日町市・津南町
（人口 十日町市 63,135人・津南町 11,868人）
【主催団体】大地の芸術祭実行委員会
【開催日】平成18年7月23日（日）
～9月10日（日）（3年に一度の開催）
【開催場所】十日町市・津南町一円
【観客動員数】348,997人
【URL】<http://www.echigo-tsumari.jp/>



十日町地域広域事務組合 企画振興課長
小堺定男



もしくはそれに近い考えでした。しかし、メディアやマスコミに紹介されることで知名度が高まると共にふるさとイベント大賞を受賞したことなどで社会的評価も一段と向上したため、直近のアンケート結果によれば、現在の住民の多くは賛成またはそれに近い考えのようです。

イベントから得たもの

国際的にみればトリエンナーレのほかに、ビエンナーレ（2年に一度の展覧会）として世界各国でアート展が開催されていますが、760km²という広大な面積に野外を中心に作品を設置した展覧会は、当地域だけです。また、大きな特徴として、自然景観や文化・歴史などの地域性を活かした作品づくりを基本にし、鑑賞する方々からその特性を知ってもらうことを狙いに行っています。さらに、訪れる方々に、途中で出逢う、日本の原風景ともいえる里山や棚田あるいはホスピタリティ溢れる住民など、この地域固有の魅力を感じ取ってもらうことも狙いに行っています。これらの狙いが奏功したのか、第3回展の会期が終了した今も、まだ作品めぐりをしたいという問い合わせやイベントの通年化を求める声が多く寄せられています。

こうして多くの方に来ていただくことは大地の芸術祭の成果ですが、それとは別に地域が得たとても大切なものが二つあります。一つは、多

くの住民が作品づくりに関わることで培われた地域コミュニティ、もう一つは、アーティストと制作ボランティアと住民らによる地域間交流です。地域コミュニティの醸成は、定住を促すだけでなく、住民が地域に誇りと愛着を持つきっかけとなり、それらは地域づくりに欠かせない要素だと思います。また、地域間交流は会期中に限ったものではなく、2000年の第1回展から継続して親交を深めているケースもあり、事実、平成16年10月に起きた中越地震の際、芸術祭に関わったアーティストや大勢の人が県外から駆けつけた上、長期間の復興作業に献身してくれ、それまでの交流やつながりが一段と緊密・堅固になりました。

私たちは、この二つの成果が事業による投資の多寡や施策の適否で必ずしも得られるものではないと受け止めています。その上で、地域が未来に向けて持続的に発展していくための、あらゆる可能性を秘めた貴重な財産と信じ、今後さらにその活動が充実・発展するよう取り組んでいきたいと考えています。



岐阜県美濃市

美濃和紙あかりアート展

わがまち**自慢**のイベント

3

第6回・大賞受賞

町並みと美濃和紙をPR

美濃和紙あかりアート展は、美濃市が市制40周年を迎えた平成6年に第1回が開催され、平成18年に第13回目を迎えるイベントとなりました。

設立当時は「うだつの上がる町並み」が国の伝統的建造物群保存地区に指定されておらず（平成11年5月31日指定）、今ほど町並みが知られていませんでした。そんな町並みと、1300年の伝統と歴史を誇る美濃和紙を合わせて何かPRできないかという考えから、何度も話し合いがもたれ、その中で考えられたのが『美濃和紙あかりアート展』です。

当初は作品の募集をしても集まらず苦労しました。知り合いにお願いして何とか応募してもらい、約80点の作品を展示しました。当時は現在のように町並みすべてに作品を展示できた訳ではなく、七軒町どおりという通りでひっそりと始まりました。それでも第1回美濃和紙あかりアート展は大変好評を博し、継続した事業として開催することが決まりました。

成長への4つの特徴

美濃和紙あかりアート展がここまで大きく成長したのは、このイベントの特徴にあるのではないかと考えます。一つには作品に『美濃和紙』を使用している点です。美濃市の伝

統工芸品である和紙で作品を作ることで、「他の地域にはない素材」という特徴が出せたと考えています。

二つ目は「うだつの上がる町並み」に作品を展示したことです。「うだつの上がる町並み」は江戸時代からの情緒を残す町並みです。そんな町並みに応募してくださった作品全てを展示し、来場される多くの方に見ていただいています。

三つ目は、作品の搬入から搬出までを、出展者ご自身にしていたことで、出展される方は、遠くは北海道や沖縄からもおられますが、遠方の方でもイベント当日に美濃まで作品を持ってきてもらい、終了後にお持ち帰りいただき、必ず美濃市へ訪れていただくようにしています。出展者の方は観光を楽しみました。来場者へご自身の作品をご紹介します。また、出展者が町並みへ来てくださることにより、地元住民ともコミュニケーションが取れ市民の意識も協力的なものになってきたと考えます。

四つ目は、イベントを実行委員会が主体となってボランティアで運営している点です。実行委員のメンバーはあかりアート展に魅力を感じて携わっている市内の方達で、職種も年齢も違う人達が参加して、様々な意見を出し合います。

雨が大敵のイベント

この様な美濃和紙あかりアート展



DATA

【自治体名】	岐阜県美濃市(人口23,939人)
【主催団体】	美濃市観光協会 ・美濃和紙あかりアート展実行委員会
【開催日】	平成18年10月7日(土)～8日(日)
【開催場所】	うだつの上がる町並み (泉町・本住町・加治屋町・常盤町・相生町・俵町・魚屋町)
【観客動員数】	100,000人
【URL】	http://www.minokanko.com/



美濃和紙あかりアート展実行委員会 委員長
蒲 幸康



ですが、大きな悩みがあります。それは天候に左右されるところです。作品は和紙で作られていますので雨に弱く、イベント当日が雨天もしくは雨天の恐れがある場合、町並みに展示ができなくなり屋内（体育館）での開催となります。私たちは今までに雨に泣かされることも多くあり、屋内での展示になると観光客の皆様が期待されるロマンチックな町並みをお見せすることができなくなってしまう。また準備の段階では雨が降っていないくても、開催時間の降水確率が30%以上だと、せっかくの作品を台無しにする訳にはいきませんので屋内で展示しています。こうした決断はとても辛いことです。

あかりの発信地として

平成14年、第6回ふるさとイベント大賞を受賞した時は、各方面から取り上げられ、今までの努力が報われた思いでとても名誉な出来事でした。

また、イベントには当日のボランティアとして市内の中学生や高校生、様々な団体の方々に参加していただいています。受賞によりボランティアを希望される方は年々増えてきています。

当日美濃市を訪れる方も増加していて、ありがたい反面、作品をゆつくり見られなくなってきたため、昨年から観光協会のイベントとして、

『あかりの町並み美濃』を立ち上げました。あかりアート展の優秀作品をアクリルのケースに入れ、町並みの軒先に開催期間中常設展示するイベントで、雨の日でも町並みの雰囲気を楽しみながら、作品を見ることができるようになりました。

これからも、あかりの発信地として発展していけたらと思っています。



イベントが人や組織の新しい連携を生み、まちづくりは新しい段階に進む

ふるさとイベント大賞(第6回〜第10回) 選考委員コメント



岡崎昌之

法政大学現代福祉学部学部長

「ふるさとイベント大賞」の審査

を通して、伝わってくるのはイベント開催現場の苦労と意気込みです。なぜなら地域における「イベント」を開催するに際しては、多くの組織や関係者、実行主体や支援者、参加者等々の理解と利害調整を必要とするからです。これが地域イベントの一つの特徴でしょう。そのことは第8回、第9回のイベント開催の現場を訪れたとき、より強く感じられました。

第8回で優秀賞を受賞した宮崎県西都市の「西都古墳まつり」は、地元の若者を中心にしたミュージカルのような南国の夜の祭で、その規模の壮大さと質の高さは、当初の私の予想をはるかに超えたものでした。祭は夜の部分だけでなく、当日の日中は商工会議所等と連携した物産祭、翌日は市内、周辺部の郷土芸能祭など、内容は多様で参加主体の多

さに驚きました。

第9回の優秀賞、「南の島の星まつり」は日本最南端の市、石垣市で開催されたものでした。祭の当日の夜は、石垣島全体の明かりを全てライトダウンして、石垣港近くの広場で天の川をはじめとする南の島の星を、みんなで楽しもうというものです。観光シーズン真っ只中の市内でライトダウンに協力してもらうことは並大抵のことではないでしょう。事前の関係者、市民への説得は苦労が伴うことだと思いました。

残念ながら平成17年8月の開催日には、その直前に石垣島を大型台風が直撃し、やむなく小学校の体育館内での開催ということになりました。いろいろ根回ししたのですが、台風だけは聞き入れてくれませんでした。しかし体育館内だけに盛り上がりは大変なものでした。地域でイベントを開催することは



宮崎県西都市「西都古墳まつり」

どんな意義を持つことでしょうか。この二つの例からも分かるように、イベントは地域の中に新しい関係性をもたらしめます。新しい人間関係、組織間の新しい連携などです。そのイベントが無ければ結びつかなかったような人や組織が地域内で連携することによって、まちづくりは新しい段階へと進むことが出来るのです。

もう一つは人材の発掘です。イベントの開催を通して、思わぬ特技や能力を持った人が、その力を発揮することがあります。イベントという非日常の場面で異能や偉才が現れるのです。まちづくりには多様な人材が不可欠です。

これらを裏返して考えると、新しい関係性を生み出さないイベント、新しい人材を生み出さないイベントは、単なる年中行事に過ぎないといえます。



沖縄県石垣市「南の島の星まつり」

イベントは、楽しみを生み出し、 人との絆を創り出す、人間の叡智



宮本倫明

イベントプロデューサー
地域ブランディングプロデューサー

イベントプロデューサーとして、地域の振興や活性化の仕事に二十余年かかわってきた者にとっても、「ふるさとイベント大賞」に全国から応募されるイベントのユニークさについては、正直毎回驚かされました。

地域の伝統を身をもって語り継ぐとするひたむきな姿勢、時代性を取り込みつつ外の人を巻き込んでいくとする熱意、暮らしを楽しもうとする創意工夫が個々のイベントからにじみ出ていて、選考委員会のたびごとに地域の、そして日本の魅力と底力を感じました。

あらためて、振り返ってみると選にはもれましたが、インパクトのあるイベントも数多くありました。第6回の応募の「伊賀上野NIINJAフェスタ2001」（三重県上野市・現在は伊賀市）は、「街中、忍者だらけ」を合い言葉に、多くの住民が忍者装束に身をつつみ来訪者をもてなすという企画で、議員の方々

が忍者装束で議会を開催したという点がとてもインパクトがありました。「全日本かくれんぼ協会」を設立してまで実施した「全日本かくれんぼ大会」（兵庫県温泉町・現在は新温泉町）も将来が楽しみなイベントです。第7回では、「全国高等学校写真真選手権大会—写真甲子園」（北海道東川町）が印象に残りました。受賞を果たした松山での「俳句甲子園」、高知での「まんが甲子園」に続く健闘が期待されます。若者が夢と理想を掲げて全国から集う姿はそれだけで心が熱くなります。第8回に応募された「全国薬草すみ大会」（大分県安心院町・現在は宇佐市）はその後、岐阜県、愛媛県などにも広がりをみせ、農村の生活文化を大いにアピールすることに貢献しています。第9回では「海藻おしぼ・押し花融合コンクール」（北海道利尻町）の視点のユニークさが際だっていました。地域の特徴がうまく活用されていて、昆布や磯の香りであふ



北海道利尻町
「海藻おしぼ・押し花融合コンクール」

れるという会場には、一度行ってみたいと思わせる臨場感がありました。第10回では「RYUKYU民族の祭典・全島旗頭フェスティバル」（沖縄県那覇市）にエネルギーを感じました。全国の伝統芸能が一堂に会するような、夢のイベントに育てて欲しいと思います。全国から旗頭が集まってくるといった図は考えただけでもゾクゾクします。

イベントは、楽しみを生み出し、人との絆を創り出す、太古から伝わる人間の叡智です。経済指標だけでは計れない豊かさを象徴するシンボルでもあります。今後とも、地域のイベントという色とりどりの豊かな花が、日本全国で絶えることなく咲き誇り続けることを願ってやみません。



沖縄県那覇市
「RYUKYU民族の祭典・全島旗頭フェスティバル」

「地域の宝」を見つけ、それを住民全体で活かしていくこと



マリ・クリスティーヌ
異文化コミュニケーター

仕事柄、さまざまな地域と関わっていますが、多くの地域で「ふるさとイベント大賞を受賞しました」という声を聞きます。みなさん非常に喜ばれていて、この賞が地域の方々に、そしてイベントに携わる人々に大きな励みとなっていると感じています。

また同時に、選考委員として毎年いろいろなイベントを審査する中で、日本にはまだまだ素晴らしい資源があると実感しました。

5年間の審査で印象に残っているイベントと言えば、第8回で部門賞に輝いた「ビッグひなまつり」（徳島県勝浦町）です。人形文化を保存

伝承するために、要らなくなったひな人形を全国から集めて、約一万五千体を一堂に展示するというものですが、何よりも集まってくる人形の多さに驚きました。体育館一杯に飾られるおひなさまは圧巻でしょう。このイベントは地域の方の思いが形になったものだと感じます。行

政が一方的にお金を出してイベントを行うのではなく、地域の人々が集まって自分たちに何ができるかを真剣に考えて、アイデアと汗と力を出せば必ず素晴らしいイベントができます。このイベントはそのことを体現しているのではないのでしょうか。

また、第7回優秀賞の「松明あかし」（福島県須賀川市）や第9回部門賞の「南総里見まつり」（千葉県館山市）など、それぞれの地域に残る歴史を活かした武士のお祭りもたくさんありました。こうした歴史祭りは一見同じように見えますが、地域によって形は様々です。やはり文化が異なるからでしょう。イベントによってそうした地域の文化を見出すことは、まさに地域のアイデンティティの確立につながります。

私が審査の時に魅かれたのは、例えばとても人口の少ない小さな町が、イベント開催時には人口以上の観客であふれかえるような効果を生み出しているようなイベントです。

イベントをきっかけに地域が活性化し、交流人口が増えるということも大事なことです。ただ人口が増えるというだけでなく、小さな町なりに自分たちの力を結集させて「地域の宝」を見出し、それを活かしていくというのは、とても重要なことです。

イベントというのは、大きなパーティーのフランニングです。私たちが家に人を招く時、どんなふうにもてなせばお客様が喜んでくれるかを一生懸命に考えるのと同じように、自分たちの地域を訪れてくれるお客様をどんなふうにもてなそうか、どこをどう見てもらおうか、どう地域を飾りつけようかと真剣に考えれば「地域の宝」は自ずと見つかります。そして、それを街の住民全体で活かしていく。「ふるさとイベント大賞」を受賞されたイベントは、どれもその基本を忘れずに開催されたイベントなのではないでしょうか。

徳島県勝浦町
「ビッグひなまつり」



福島県須賀川市
「松明あかし」

ふるさとイベント大賞 10年の記録

資料編

受賞イベント

ふるさとイベント大賞



●イベント名／自治体名／掲載ページ

- ① 小樽雪あかりの路／北海道小樽市／P.70
- ② たんのカレーライスマラソン／北海道北見市／P.61
- ③ 沼田町夜高あんどん祭り／北海道沼田町／P.65
- ④ 全日本玉入れ選手権／北海道和寒町／P.59
- ⑤ しもかわアイスキャンドルフェスティバル／北海道下川町／P.63
- ⑥ 昭和新山国際雪合戦／北海道壮瞥町／P.53
- ⑦ とうもろこし3万坪迷路／北海道本別町／P.57
- ⑧ 五所川原 立佞武多／青森県五所川原市／P.56
- ⑨ 三陸・大船渡夏まつり／岩手県大船渡市／P.61
- ⑩ 藤沢野焼祭／岩手県藤沢町／P.70
- ⑪ エアロバティックジャパンINかくだ／宮城県角田市／P.70
- ⑫ 小学生創作ミュージカル発表会／宮城県南三陸町／P.54
- ⑬ さくらんぼ種飛ばしジャパングランプリ／山形県東根市／P.71
- ⑭ 松明あかし／福島県須賀川市／P.64
- ⑮ 西塩子の回り舞台歌舞伎公演／茨城県常陸大宮市／P.66
- ⑯ 地芝居サミット／群馬県渋川市／P.55
- ⑰ 安政遠足侍マラソン／群馬県安中市／P.69
- ⑱ 南総里見まつり(館山城まつり)／千葉県館山市／P.69
- ⑲ 江戸幕府 鉄炮組百人隊出陣の儀／東京都新宿区／P.59
- ⑳ 青梅宿アートフェスティバル／東京都青梅市／P.57
- ㉑ 大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ／新潟県十日町市・津南町／P.60
- ㉒ つがわ狐の嫁入り行列／新潟県阿賀町／P.66
- ㉓ えちごせきかわ大したもん蛇まつり／新潟県関川村／P.67
- ㉔ 万葉集全20巻朗唱の会／富山県高岡市／P.52
- ㉕ 源平火牛祭り／富山県小矢部市／P.61
- ㉖ 金沢・浅の川園遊会／石川県金沢市／P.65
- ㉗ モントレージャズフェスティバルin能登／石川県七尾市／P.70
- ㉘ 全国子供歌舞伎フェスティバルin小松／石川県小松市／P.60
- ㉙ 445
- ㉚ 75
- ㉛ 76

全国マップ

●イベント名／自治体名／掲載ページ

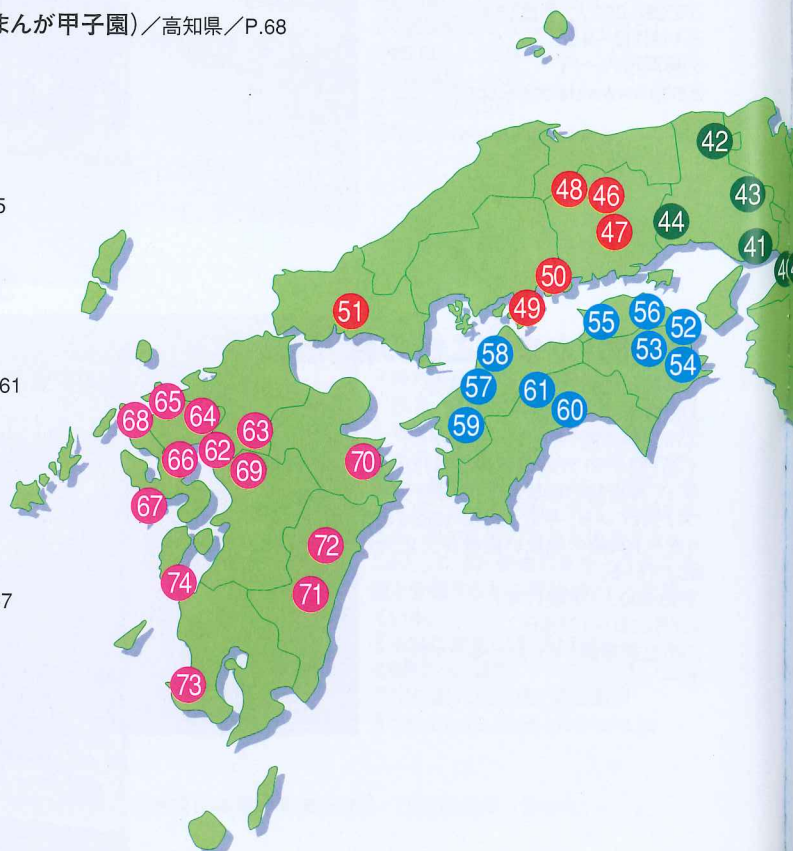
- 29 白峰・桑島雪だるままつり／石川県白山市／P.57
- 30 農林ピック・そばフェスタ／福井県池田町／P.65
- 31 いいだ人形劇フェスタ／長野県飯田市／P.62
- 32 祭in大町・北安曇／長野県大町市／P.55
- 33 ちっちゃな村の絵手紙展／長野県栄村／P.53
- 34 氷点下の森 氷祭り／岐阜県高山市／P.71
- 35 美濃和紙あかりアート展／岐阜県美濃市／P.62
- 36 大道芸ワールドカップin静岡／静岡県静岡市／P.52
- 37 からくりデザインフェスティバル'99／愛知県名古屋市中／P.58
- 38 中馬のおひなさん／愛知県豊田市／P.65

- 39 近江中世城跡琵琶湖一周のろし駅伝／滋賀県米原市／P.67
- 40 西暦2000年世界民族芸能祭「ワッショイ! 2000」／大阪府・大阪府堺市／P.61
- 41 神戸ルミナリエ／兵庫県神戸市／P.53
- 42 第3回コウノトリ未来・国際かいぎ／兵庫県豊岡市／P.71
- 43 丹波の森国際音楽祭 シューベルティアードたんば／兵庫県篠山市・丹波市／P.69
- 44 星の都絵本大賞／兵庫県佐用町／P.54
- 45 なら燈花会／奈良県奈良市／P.65

- 46 北房ぶり市／岡山県真庭市／P.67
- 47 岡山弁はええもんじゃ〜ことばの祭り・建部〜／岡山県建部町／P.68
- 48 がいせん桜まつり／岡山県新庄村／P.63
- 49 いんのしま水軍まつり／広島県尾道市／P.56
- 50 ゲタリンピック／広島県福山市／P.60
- 51 21世紀未来博覧会(山口きらら博)／山口県／P.63

- 52 ドイチェス・フェストinなると／徳島県鳴門市／P.59
- 53 高開石積ライトアップ／徳島県吉野川市／P.69
- 54 ビッグひな祭り／徳島県勝浦町／P.67
- 55 八朔人形まつり／香川県三豊市／P.64
- 56 獅子舞フェスタ／香川県三木町／P.71
- 57 えひめ町並博2004／愛媛県／P.69
- 58 ことばのちからイベント事業 松山「俳句甲子園」／愛媛県松山市／P.62
- 59 全国「かまぼこ板の絵」展覧会／愛媛県西予市／P.52
- 60 あったか高知まんがフェア・全国高等学校漫画選手権大会(まんが甲子園)／高知県／P.68
- 61 仁淀川紙のこいのぼり／高知県の町／P.58

- 62 柳川ソーラーボート大会／福岡県柳川市／P.54
- 63 棚田inうきは彼岸花めぐり／福岡県うきは市／P.56
- 64 佐賀インターナショナルバルーンフェスタ／佐賀県佐賀市／P.55
- 65 国際溪流滝登りinななやま／佐賀県唐津市／P.63
- 66 鹿島ガタリンピック／佐賀県鹿島市／P.64
- 67 長崎ランタンフェスティバル／長崎県長崎市／P.60
- 68 土谷棚田の火祭り／長崎県松浦市／P.71
- 69 GET21なんかん 音と光のカウントダウン／熊本県南関町／P.61
- 70 うすき竹宵／大分県臼杵市／P.59
- 71 西都古墳まつり／宮崎県西都市／P.66
- 72 師走まつり 迎え火／宮崎県美郷町／P.58
- 73 吹上浜砂の祭典／鹿児島県南さつま市／P.53
- 74 あづま(ながしま)造形美術展／鹿児島県長島町／P.55
- 75 夏祭りin那覇 万人のエイサー踊り隊／沖縄県那覇市／P.57
- 76 南の島の星まつり／沖縄県石垣市／P.68





24 万葉集全20巻朗唱の会

(P33～35参照)

- ① 万葉集全20巻朗唱の会
- ② 富山県高岡市
- ③ 高岡万葉まつり実行委員会
- ④ 歌人大伴家持ゆかりの地に、豊かに残る万葉ロマンを現代に伝える。古城公園の堀に設けられた水上舞台で、万葉集全20巻4516首を2,000人を越える人々が三昼夜をかけて歌い継ぐメインイベントのほか伝統芸能発表、大茶会など多彩なイベントで「万葉のふるさと高岡」をアピールしている。
- ⑤ 80,000人(平成18年)
- ⑥ 10月5日～7日
- ⑦ 高岡市古城公園
- ⑧ <http://www.city.takaoka.toyama.jp>

36 大道芸ワールドカップ in 静岡

- ① 大道芸ワールドカップin静岡
- ② 静岡県静岡市
- ③ 大道芸ワールドカップ実行委員会
- ④ 国内外から集まったパフォーマーが、市内に設けられた演技ポイントでパフォーマンスを繰り広げる。イベントを通じて市民の意識に文化・芸術の素晴らしさを感じ取る感受性や自己表現ができる感性、さまざまな文化とコミュニケーションできる国際感覚が芽生え、育ち、定着している。
- ⑤ 2,280,000人(平成18年)
- ⑥ 11月1日～4日
- ⑦ 静岡市内一円
- ⑧ <http://www.daidoge.com/>



59 全国「かまぼこ板の絵」展覧会

- ① 全国「かまぼこ板の絵」展覧会
- ② 愛媛県西予市
- ③ 市立美術館「ギャラリーしろかわ」
- ④ 第1回から1万点以上の応募作品が届けられ、プロアマー緒になって美術館の敷居を下げ、深呼吸のできる安らぎの場所と位置づけられている。平成18年に12回を迎えたがますます盛んになり、0歳～104歳の幅広い感性が文化大使として世界に文化発信を続けている。
- ⑤ 30,000人(平成17年)
- ⑥ 7月22日～12月9日
- ⑦ 市立美術館「ギャラリーしろかわ」
- ⑧ —



選考委員紹介 (肩書は当時)

●選考委員長

泉眞也

環境デザイナー

●選考委員

竹内宏

長銀総合研究所理事長

櫻井よしこ

ジャーナリスト

嶋津昭

自治省大臣官房総務審議官

矢野文一

全国知事会事務局次長

松井義雄

読売新聞社取締役広告局長

吉田弘正

財団法人地域活性化センター理事長

選考委員会からの総評

選考にあたっては、今回が「ふるさとイベント大賞」の第1回目であるということと、この賞に触発・影響されて地域のイベントがさらに充実したものになってほしいという観点から各賞を決定しました。個性豊かな活力あふれる地域づくりを目指したイベント展開を図る上で参考となる、斬新かつ独創的なアイデアに富み、多くの方々には是非知っていただきたいイベントが選考されたものと思っております。

なお、今回残念ながら表彰することができなかったイベントの中にも、国内のみならず海外からも高い評価を受けているものや地域の「顔」としてすでに定着しているものなど優れたイベントが数多くありました。これらの、地域が一体となった継続的な取り組みにあらためて敬意を表するとともに、創意と工夫を発揮した積極的な地域づくりが全国各地で展開されていくことを願っております。

33 ちっちゃな村の絵手紙展



- ① 全国「ちっちゃな村の絵手紙展」
- ② 長野県栄村
- ③ 栄村絵手紙吹きの会
- ④ 平成8年から全国公募の絵手紙展を実施。長野オリンピック時は絵手紙世界展を開催し、世界中から友好と平和のメッセージを寄せてもらうとともに世界に向けて絵手紙による情報発信をした。現在は、120人からなる「栄村絵手紙吹きの会」を発足させ、公募展のほか絵手紙列車による全国との交流活動を展開している。
- ⑤ 3,000人(平成18年)
- ⑥ 10月中旬～11月中旬
- ⑦ 森宮野原駅交流館(JR飯山線)
- ⑧ <http://www.vill.sakae.nagano.jp/>

73 吹上浜砂の祭典



- ① 吹上浜砂の祭典
- ② 鹿児島県南さつま市
- ③ 吹上浜砂の祭典実行委員会
- ④ 砂の彫刻(砂像)をメインに多彩なイベントを企画・運営している。経済的な波及効果はもちろん、祭典の設営及び運営には企業・各種団体などの多くのスタッフ・ボランティアが携わることから、人づくり・地域づくりに貢献している。
- ⑤ 170,000人(平成18年)
- ⑥ 5月1日～5日
- ⑦ かせだドーム周辺
- ⑧ <http://www.sand-minamisatsuma.jp>

6 昭和新山国際雪合戦



- ① 第8回昭和新山国際雪合戦
- ② 北海道壮瞥町
- ③ 昭和新山国際雪合戦実行委員会
- ④ 日本古来の遊び「雪合戦」にルールを付けた冬のニュースポーツ。雪という条件が揃えばいつでもどこでも誰でもできるスポーツである。普及を通じ国内各地との新しい交流が生まれ、フィンランドなど国際的な交流も進んでいる。
- ⑤ 25,000人(平成18年)
- ⑥ 2月24日～25日
- ⑦ 昭和新山山麓
- ⑧ <http://www.yukigassen.jp>

41 神戸ルミナリエ



- ① 神戸ルミナリエ
- ② 兵庫県神戸市
- ③ 神戸ルミナリエ組織委員会
- ④ 阪神・淡路大震災犠牲者への鎮魂の意を込めるとともに、都市の復興・再生への夢と希望を託し、平成7年から開催。震災で打ちひしがれた神戸の街と市民に大きな感動と勇気、希望を与えた。今では冬の神戸を代表するイベントとして、また都市の再生と市民の希望を象徴する冬の風物詩として定着している。
- ⑤ 4,360,000人(平成17年)
- ⑥ 5月ごろに決定
- ⑦ 旧外国人居留地・東遊園地
- ⑧ <http://www.kobe-luminarie.jp/>

© Valerio Festi/I&F Inc./Kobe Luminarie O.C.



12 小学生創作 ミュージカル発表会

- ①小学生創作ミュージカル発表会
- ②宮城県南三陸町
- ③歌津町教育委員会
- ④旧歌津町の2校の小学校から全児童
が出演して創作ミュージカルを創り上げ
る。地域の歴史や先人を題材にしたミ
ュージカルを作り上げることで、郷土への愛
がめばえるとともに、新たな地域文化を創
造した。南三陸町への合併を機に終了。
- ⑤1,500人(平成16年)
- ⑥平成16年終了
- ⑦旧歌津町歌津中学校
- ⑧—

62 柳川ソーラーボート大会

- ①柳川ソーラーボート大会
- ②福岡県柳川市
- ③柳川ソーラーボート大会実行委員会
- ④同市は、網の目のように掘割が巡り情緒あふれる独自の水辺環
境を形成し「川下り舟」が行き交うことで知られている。これを活か
した柳川らしいまちづくりと太陽エネルギーの有効利用の推進、も
のづくりの楽しさを実感できる大会を目指して開催している。来年
度の開催は未定。
- ⑤5,000人(平成18年)
- ⑥未定
- ⑦未定
- ⑧—



44 星の都絵本大賞

- ①星の都絵本大賞
- ②兵庫県佐用町
- ③佐用町・星の都絵本大賞実行委員会
- ④平成3年から隔年で開催された「絵本の公募展」。新人絵本作
家の登竜門であるとともに、親子の思い出作りの手だてとして開催
した。主催は、地域の主婦を中心としたボランティアでイベントがな
い時期には、絵本製作講習会や読み聞かせの会、手づくり絵本館
の運営など、地域をあげて絵本文化を普及させた。
- ⑤2,000人(平成11年)
- ⑥平成11年で終了
- ⑦スピカホール
- ⑧—



選考委員紹介（肩書は当時）

●選考委員長

泉眞也

環境デザイナー

●選考委員

竹内宏

長銀総合研究所理事長

櫻井よしこ

ジャーナリスト

香山充弘

自治省大臣官房総務審議官

紀内隆宏

全国知事会事務総長

佐々木宏人

毎日新聞社東京本社広告局長

吉田弘正

財団法人地域活性化センター理事長

選考委員会からの総評

2回目となる「ふるさとイベント大賞」の選考を終えて、応募されたイベント全体の印象を総括しますと、それぞれの地域で、自由な発想で手作り感を大事にしたまちづくりが展開されており、新たな地域づくりがイベントを通じて真剣に模索されていると感じました。

最近、日本の将来を担う子どもたちに一抹の不安を感じさせる報道が続いており、学校での教育だけでなく、隣り近所など地域社会における教育の力が求められています。地域で開催されるイベントにおいて、真剣に取り組む大人たちの姿が、子どもたちの心の教育になると思います。

また、地球規模で問題となっている環境問題への取り組みや、経済や人が国境を越え流動するボーダーレス時代だからこそ、日本文化や地域のアイデンティティの再確認もイベントのキーワードになってきています。

今後、より独創的で地域性溢れる地域イベントの実施に期待するとともに、イベントを通じ積極的な地域づくりをされている方々に敬意を表します。



74 あづま(ながしま)造形美術展

- ①あづま造形美術展
- ②鹿児島県長島町
- ③長島町
- ④日ごろ顔を合わすことの少ない集落の住民、PTA、団体が一丸となって大きな造形物を製作し、一同に展示。町内外から多くの入場者がある。隔年開催ではあるが、県内はもとより九州一円から訪れる人も多く、地域の活性化につながっている。特産物の販売による経済効果も大。
- ⑤70,000人(平成17年)
- ⑥10月中旬(隔年開催)
- ⑦太陽の里(予定)
- ⑧<http://www.toan.nagashima.lg.jp>

32 祭in大町・北安曇



- ①祭in大町・北安曇'97炎
- ②長野県大町市
- ③祭in大町・北安曇実行委員会
- ④長野オリンピック白馬会場前夜祭イベントとして公演を行った。地元7市町村が力を合わせてオリンピックの開幕を盛り立てた。以降、当初の目的を達したとしてイベントは終了したが、広域圏を創る7市町村が交流を図り、手を取り合って地域づくりに向かう機運が醸成された。
- ⑤500人(平成10年)
- ⑥平成10年終了
- ⑦白馬村ウィング21
- ⑧—

16 地芝居サミット



- ①上三原田の歌舞伎舞台公演
- ②群馬県渋川市
- ③上三原田歌舞伎舞台操作伝承委員会
- ④歌舞伎舞台操作の見学と歌舞伎公演を開催。平成13年には国民文化祭に参加し、翌年から舞台祭りとして公演している。伝統文化を後世に伝えようと、組織を結成し地域に継承してきた。その結果地域の連帯意識の高揚とともに、津久田獅子舞の復興、人形舞台継承など地域の活性化につながっている。
- ⑤3,500人(平成17年)
- ⑥11月24日～25日
- ⑦赤城町上三原田地内
- ⑧—

64 佐賀インターナショナルバルーンフェスタ (P19～21参照)



- ①1997佐賀熱気球世界選手権
- ②佐賀県佐賀市
- ③佐賀バルーンフェスタ組織委員会
- ④アジア最大の熱気球の国際大会。毎年、世界各地から100機を超えるバルーンが集まり佐賀の上空を色鮮やかに埋め尽くしている。平成18年に27回を数え、佐賀の秋の風物詩としてすっかり定着しており、市民にとってバルーンは一つの文化として、また誇るべきものとして成長している。
- ⑤877,000人(平成18年)
- ⑥10月31日～11月4日
- ⑦嘉瀬川河川敷
- ⑧<http://www.sibf.jp>



49 いんのしま水軍まつり

- ① 因島水軍まつり
- ② 広島県尾道市
- ③ 因島・水軍ふる里まつり振興協議会
- ④ 村上水軍を伝承し、年代を越えてみんなで参加、感動することを目的に3部構成で開催。(1) 島まつり…先人に感謝しまつりの成功を祈願、(2) 火まつり…武者と跳楽舞コンテストを中心とした夜まつり、(3) 海まつり…水軍時代に伝令船として活躍した木造船「小早(こはや)」を復元したレース。
- ⑤ 42,500人(平成18年)
- ⑥ 8月25日～26日
- ⑦ しなみビーチ(因島アメニティ公園)
- ⑧ <http://www.city.onomichi.hiroshima.jp/>

8 五所川原 立佞武多^{たちねぶた}(P6～9参照)

- ① 立佞武多の運行
- ② 青森県五所川原市
- ③ 「五所川原立佞武多」運営委員会
- ④ 平成8年、有志により80年ぶりに立佞武多が復元された。全国的に大きな反響を呼び、市ならびに津軽半島地域の知名度を高めるとともに、不撓不屈の五所川原魂を強く印象付けた。イベントとして再開してからは毎年1台ずつ制作している。立佞武多は高さ約22m、重さ約17tと巨大。
- ⑤ 1,450,000人(平成18年)
- ⑥ 8月4日～8日
- ⑦ 五所川原市中心市街地
- ⑧ <http://www.goshogawara.net.pref.aomori.jp>



63 棚田inうきは彼岸花めぐり

- ① 棚田inうきは彼岸花めぐり
- ② 福岡県うきは市
- ③ 棚田inうきは彼岸花めぐり実行委員会
- ④ 石組みの棚田と、そのあぜ道に咲く30万本の彼岸花の景観を守るイベント。地域住民と都市住民との交流に弾みがつき経済的波及効果を生んだ。またマスコミに広く取り上げられ平成14年にはNHKドラマ「うきは～少年たちの夏～」の舞台として全国的に知られるようになった。市町村合併後も彼岸花が市の花となるなど、景観を活かした新市の代表的イベントとなっている。
- ⑤ 32,000人(平成18年)
- ⑥ 9月中～下旬
- ⑦ うきは市浮羽町新川地区の棚田
- ⑧ <http://www.city.ukiha.fukuoka.jp>



選考委員紹介 (肩書は当時)

●選考委員長

泉眞也

環境デザイナー

●選考委員

竹内宏

経済評論家

森まゆみ

地域雑誌編集人・作家

香山充弘

自治省大臣官房総務審議官

紀内隆宏

全国知事会事務総長

永島貴弘

産経新聞社東京本社営業局長

吉田弘正

財団法人地域活性化センター理事長

選考委員会からの総評

今回で3回目となる「ふるさとイベント大賞」の選考を終えて、応募された163の地域イベントを通して感じられた印象は、優れたイベントの応募が、非常に増えてきたということです。応募されたイベントの優劣の差が小さく、選考には非常に苦労いたしました。今回惜しくも選に漏れた地域イベントの中にも、全国的に高い評価を受けている素晴らしいイベントが沢山ありましたことを申し添えておきます。

日本経済が厳しい状況にある昨今、地方公共団体でも予算削減や事業の見直し等があり、様々な面で苦労されている地域イベント担当者の方も多いかと思います。そのような中で、全国各地で地域性に富んだ個性豊かなイベントが、数多く実施されておりますことは実に頼もしく、今後も力を尽くしていただきたいと思います。

75 夏祭りin那覇 一万人のエイサー踊り隊



部門賞【祭り】

- ① 一万人のエイサー踊り隊
- ② 沖縄県那覇市
- ③ 夏祭りin那覇実行委員会
- ④ 伝統文化を通じて地域商店街の活性化と来街者、観光客および地域住民との交流を図るために開催される真夏の一大ページェント。県内外から60団体、一般参加をあわせて1,700人あまりからなる集団演舞が披露され、大いに盛り上がる。
- ⑤ 106,000人(平成18年)
- ⑥ 8月5日
- ⑦ 那覇市国際通り
- ⑧ <http://www.kokusaidori.org>

7 とうもろこし3万坪迷路



部門賞

- ① とうもろこし3万坪迷路
- ② 北海道本別町
- ③ とうもろこし3万坪迷路実行委員会
- ④ 豊かな自然風土と基幹産業である農業の原点「土づくり」を根幹に、農業・観光産業の振興を図ろうとするイベント。3万坪のとうもろこし畑を巨大迷路にして、タイムトライアルレース、とうもろこしの早食い大会など多彩な催しにより、食糧の安全な基地として全国に発信することができた。
- ⑤ 8,924人(平成16年)
- ⑥ 平成16年終了
- ⑦ 本別町拓展
- ⑧ —

20 青梅宿アートフェスティバル



【展示・博覧会】部門賞

- ① 青梅宿アートFes「招き猫たちの青梅宿」
- ② 東京都青梅市
- ③ 青梅宿アートフェスティバル実行委員会(青梅宿6商店街)
- ④ 年々参加商店街が増える中、青梅赤塚不二夫会館、昭和レトロ商品博物館が誕生、JRや地元大学との連携もでき、商店街の枠を超えたイベントになりつつある。さらに、昭和をキーワードに、まち全体を博物館に見立てた「おうめまごど博物館構想」が推進されるなど、波及効果は大きい。
- ⑤ 50,000人(平成17年)
- ⑥ 11月下旬
- ⑦ 青梅駅周辺商店街区域
- ⑧ <http://www.t10.ocn.ne.jp/~retoro/>

29 白峰・桑島雪だるままつり



特別賞

選考委員特別賞

- ① 雪だるまウィーク'98
- ② 石川県白山市
- ③ 雪だるま実行委員会
- ④ 「住民1人1個の雪だるま」を合言葉に1,100人の住民に対し2,500個以上の愉快な雪だるまが所狭しと立ち並ぶ。地域全体が雪だるま公園に変身する。雪だるまの中にはローソクが灯され、幻想的な雰囲気漂わせる。観光客の増加、若者の育成など地域の活性化に貢献している。
- ⑤ 6,500人(平成18年)
- ⑥ 2月5日、9日
- ⑦ 白峰地区・桑島地区一円
- ⑧ —



大賞

に よどがわ
61 仁淀川紙のこいのぼり

- ① 仁淀川紙のこいのぼり
- ② 高知県の町
- ③ 仁淀川紙のこいのぼり実行委員会
- ④ 同町特産の「土佐和紙」と清流「仁淀川」を身近な存在として引き継いでいくためにスタート、特産の紙「不織布」で作られた紙のこいのぼりが仁淀川に泳ぐ風景は、同町の風物詩として定着している。また、今では仁淀川は多くの人々に親しまれ、利用される川となっている。
- ⑤ 50,000人(平成18年)
- ⑥ 5月3日～5日
- ⑦ いの町波川(仁淀川河原)
- ⑧ <http://blogs.yahoo.co.jp/inokanko2006>



優秀賞

72 師走まつり 迎え火

- ① 師走祭り「迎え火」
- ② 宮崎県美郷町
- ③ 百済の里南郷温泉観光協会
- ④ 師走まつりは、木城町比木神社に祀られる百済王族長男王が父王の祀られる神門神社を年に一度訪れ再開を果たす祭り。道中は、故事に基づいた神事が執り行われる。また、迎え火は火を放つ行事を迎え火によって再現したもの。やぐら作りには町外からの参加もあり、まちの活性化につながっている。
- ⑤ 2,000人(平成18年)
- ⑥ 1月26日
- ⑦ 美郷町南郷区神門字小路前田
- ⑧ <http://www.town.miyazaki-misato.lg.jp>

37 からくりデザインフェスティバル'99

- ① からくりデザインフェスティバル'99
- ② 愛知県名古屋市
- ③ 名古屋からくりデザインフェスティバル実行委員会
- ④ 名古屋を中心とした尾張地域に深く根付いている伝統からくりや最先端技術を駆使したからくりを展示・実演、また独創的なからくりのアイデアや作品を全国公募した。ものづくり文化の土壌を活かし、企業などの民と官が一体となって、未来に向かって育むべき「モノづくりの心」を継承するイベントとして実施した。
- ⑤ 16,400人(平成11年)
- ⑥ 受賞年のみの開催(平成11年10月9日～11日)
- ⑦ ナディアパーク
- ⑧ —

優秀賞



選考委員紹介 (肩書は当時)

●選考委員長

泉眞也

環境デザイナー

●選考委員

竹内宏

経済評論家

森まゆみ

地域雑誌編集人・作家

森元恒雄

自治省大臣官房総務審議官

紀内隆宏

全国知事会事務総長

佐藤富男

日本経済新聞社取締役
東京本社広告局長

吉田弘正

財団法人地域活性化センター理事長

選考委員会からの総評

日本の国土は亜寒帯から亜熱帯に及び、大洋と内海に接し、高温、多湿、雨季がある。多彩な国土を持ち、その半分に雪が降る。四季が鮮明に分かれ、50万年に及ぶ。

この多様な自然とともに、歴史、文化を深く考え、現代に結びつけることが「地域活性化イベント」の原点である。

第4回を迎えたイベント大賞は、地域特性、歴史性、国際性、環境に配慮する優しさを備えたものが賞を受けた。また、受賞イベント以外にも注目すべきものがあった。

わずかな費用で大きな効果をあげているイベントは、いずれもボランティアの活躍が目立っている。これを契機に各地のグループ相互のネットワーク的展開が生まれ、育つことを期待する。

4 全日本玉入れ選手権



- ①第4回全日本玉入れ選手権
- ②北海道和寒町
- ③全日本玉入れ協会
- ④名誉と優勝賞金を目指し、会場内で熱い戦いが繰り広げられる。6人の選手が合計100個の玉を高さ4m12cm(和寒町最低気温41.2℃に由来)、直径44cm(和寒町緯度に由来)のバスケットに入れるまでのタイムを競う。懐かしさや手軽さ、最後まで気の抜けないスピードと劇的な展開が魅力。
- ⑤1,500人(平成18年)
- ⑥9月2日
- ⑦和寒町総合体育館
- ⑧—

70 うすき竹宵



- ①竹光芸まつり
- ②大分県臼杵市
- ③うすき竹宵実行委員会・臼杵市
- ④臼杵の古い町並みを約2万本の竹ぼんぼりやオブジェで彩る「静」「和」「女性の祭り」をイメージした祭り。臼杵石仏に伝わる伝説を基にした「般若姫行列」などが行われる。商工会議所青年部や中央通商店街青年部、市役所有志などによって始まったが、年々町全体として盛り上がりを見せ、多くの来場者がある。
- ⑤85,000人(平成18年)
- ⑥11月3日～4日
- ⑦二王座・町八町一円
- ⑧<http://www17.ocn.ne.jp/~takeyoi/event/>

52 ドイチェス・フェストinなると



- ①ドイチェス・フェストinなると
- ②徳島県鳴門市
- ③ドイチェス・フェストinなると実行委員会
- ④獅子舞や普段着の第九などの地域参加型企画、ドイツ捕虜の資料をもとに復元したハムやコーヒーなど学術的企画、ドイツから来日したピアニストによるコンサートや地元大学生の創作ダンスなど多種多彩なイベント。来館する人々の笑顔が、このイベントの成功を確実なものにしている。
- ⑤3,000人(平成18年)
- ⑥10月中旬
- ⑦鳴門市ドイツ館
- ⑧<http://www.city.naruto.tokushima.jp/germanhouse/>

19 江戸幕府 鉄炮組百人隊出陣の儀 (P40～41参照)



- ①「鉄炮組百人隊」出陣
- ②東京都新宿区
- ③江戸幕府鉄炮組百人隊保存会
- ④江戸時代、現在の新宿区百人町に住んでいた鉄炮百人組を再現している。実物の火縄銃を使用し、各所で空砲を発射するイベントで、総勢150人による江戸時代絵巻のイベントである。百人町のみならず、新宿区の名物イベントとなっている。
- ⑤40,000人(平成17年)
- ⑥9月30日(隔年開催)
- ⑦新宿区百人町一～四丁目一円
- ⑧—



大賞

21 大地の芸術祭

えちご つまり

越後妻有アートトリエンナーレ

(P42～43参照)

①大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2000

②新潟県十日町市・津南町

③大地の芸術祭実行委員会

④3年に一度の世界最大級のアート展。数々の作品は主に屋外に展示・設置され、来訪者は作品鑑賞にとどまらず、移動の間に日本の原風景たる里山や棚田などの景観を楽しむことができる。会期中は30万人を超える入り込みがある上、作品作りを通して住民とボランティアの交流が生まれるなど、コミュニティの醸成に寄与している。

⑤348,997人(平成18年)

⑥3年に一度の開催

⑦十日町市、津南町一円

⑧<http://www.echigo-tsumari.jp/>

© Kazue Kawase



優秀賞

50 ゲタリンピック

①第7回ゲタリンピック2000 ②広島県福山市

③ゲタリンピック実行委員会

④誰もが気軽に参加できる福山市松永地区の特産品・ゲタを使用した競技を中心とした祭り。ステージイベントや物産展的役割を持つ企業ブース等のイベントも実施している。また、現在の生活様式に適応した下駄やびんご中継表、置き畳を全国にPRし、地場産業の振興にも寄与している。

⑤55,000人(平成18年)

⑥9月中旬

⑦JR松永駅南口周辺

⑧<http://www.getatlympic.com>



優秀賞

67 長崎ランタンフェスティバル

①長崎ランタンフェスティバル ②長崎県長崎市

③長崎ランタンフェスティバル実行委員会

④15,000個ものランタンが長崎の街を極彩色に染める中国色豊かな灯りの祭典。もとは長崎在住の華僑の人々が中国の旧正月を祝う「春節祭」として新地中華街で始めたもので、平成6年から市や商工会議所が参画して規模を拡大。今や長崎の冬を彩る一大風物詩となっている。

⑤860,000人(平成18年)

⑥2月18日～3月4日

⑦湊公園・新地中華街・中央公園ほか

⑧—



文化・芸術部門賞

28 全国子供歌舞伎フェスティバルin小松

①全国子供歌舞伎フェスティバルin小松 ②石川県小松市

③全国子供歌舞伎フェスティバルin小松実行委員会

④同市には240年あまりの伝統を誇る曳山子供歌舞伎がある。日本全国にも多くの子供歌舞伎が存在していることから、全国の子供歌舞伎が勸進帳の故郷として知られる小松の地において、競演し交流することで、小松のみならず全国の伝統文化を見直す契機にしようとするもの。多くの人の交流と人材が生まれつつある。

⑤1,350人(平成18年)

⑥5月12日～13日

⑦石川県こまつ芸術劇場うらら

⑧<http://www.city.komatsu.ishikawa.jp>

選考委員紹介 (肩書は当時)

●選考委員長

泉眞也

環境デザイナー

●選考委員

竹内宏

経済評論家

森まゆみ

地域雑誌編集人・作家

新原芳明

総務省大臣官房審議官

紀内隆宏

全国知事会事務総長

岩田安弘

読売新聞社取締役広告局長

吉田弘正

財団法人地域活性化センター理事長

選考委員会からの総評

優れたイベントには、どこか常識を越えたものがあります。

率直に言って5年目ともなれば、斬新なアイデアも底をつき、相互に学び合うことが、かえって似たようなものになり、はっとするイベントが少ないように思います。

この閉塞的状況を突破するためには、2つの方法がありそうです。1つは、あくまでも独創性にこだわること、もう1つは、各要素を組み合わせ、総合することでしょう。

前者には「ゲタリンピック2000」「源平火牛祭り」「たんのカレーライスマラソン」などがあり、後者の代表としては「ワッショイ!2000」「越後妻有アートトリエンナーレ2000」があげられます。

特に後者の2つは、地域がダイレクトに世界と交流する未来形のイベントであり、行政、個人、ボランティアなどの協働が好ましく、できれば継続して欲しいと思います。

25 源平火牛祭り



- ① 源平火牛祭り
- ② 富山県小矢部市
- ③ おやべ祭り実行委員会
- ④ 源平倶利伽羅合戦で、源義仲が牛の角に松明をつけ平家の大軍を攻めたとされる「火牛の計」をモチーフにしたイベント。街なかを稲わらで作った巨大火牛を走らせる「火牛の計レース」をメインに多彩な催しを行う。主催の実行委員会には多くの市民が参加し、自分たちの手によるまちづくりのきっかけとなるよう、取り組んでいる。
- ⑤ 3,000人(平成18年)
- ⑥ 7月下旬
- ⑦ 石動駅前通りほか
- ⑧ <http://www.city.oyabe.toyama.jp/>

9 三陸・大船渡夏まつり



- ① 大船渡・かがり火まつり
- ② 岩手県大船渡市
- ③ 三陸・大船渡夏まつり実行委員会
- ④ 地元企業の協賛金などによって開催されており、運営には多くのボランティアが携わっている。市民3,000人が参加する市民道中踊りや幻想的な演出で郷土芸能を披露する「かがり火幻想夜」、花火大会など市民の手づくりの祭りである。また、海上七夕など地域の特性である「海」を活かした東北最大級の海の祭典でもある。
- ⑤ 211,000人(平成18年)
- ⑥ 8月2日～4日
- ⑦ 茶屋前岸壁、大船渡商店街ほか
- ⑧ <http://www.city.ofunato.iwate.jp>

69 GET21なんかん 音と光のカウントダウン



- ① GET21なんかん 音と光のカウントダウン2001
- ② 熊本県南関町
- ③ GET21なんかん 音と光のカウントダウン実行委員会
- ④ 町内にそびえる大津山を色とりどりの華やかな電飾で包み込み、まちを照らし出す「夢のツリー」のもとで、町民が新世紀へのカウントダウンを行った。主催メンバーがそれぞれ持てる力をいかに発揮し、まちの活性化にかける熱い思いが実ったイベントである。
- ⑤ 3,000人
- ⑥ 平成11年12月31日～12年1月1日および平成12年12月31日～13年1月1日の開催
- ⑦ 大津山公園一円
- ⑧ —

2 たんのカレーライスマラソン (P13～15参照)



- ① たんのカレーライスマラソン
- ② 北海道北見市
- ③ たんのカレーライスマラソン実行委員会
- ④ オホーツクのさわやかな秋空のもと、田園都市・端野町の豊かな自然を満喫しながらマラソンでスポーツの秋を楽しむ。また、コース途中で新鮮な地元産のたまねぎ・いもなどを自分で収穫し、4人1組で集めた材料でカレーを作って楽しく食べる。スポーツの秋と食欲の秋を同時に堪能できる。
- ⑤ 1,000人(平成18年)
- ⑥ 9月23日
- ⑦ 端野町屯田の杜公園ほか
- ⑧ <http://www.city.kitami.lg.jp>

40 西暦2000年世界民族芸能祭「ワッショイ!2000」



- ① 西暦2000年世界民族芸能祭「ワッショイ!2000」
- ② 大阪府・大阪府堺市
- ③ 西暦2000年世界民族芸能祭組織委員会
- ④ 世界70カ国以上から3,500人以上の演者が大阪・堺に集い、民族芸能・民族文化を介して国際交流し、世界平和に貢献した。また、「世界都市・大阪」「自由都市・堺」を継承し、未来への発展を目指した事業として市民・府民等の参画を得て大きな成果を挙げた。
- ⑤ 400,000人
- ⑥ 受賞年のみの開催(平成12年7月28日～8月6日)
- ⑦ 堺市大仙公園・堺旧港周辺ほか
- ⑧ —



35 美濃和紙あかりアート展

(P44～45参照)

- ① 美濃和紙あかりアート展
- ② 岐阜県美濃市
- ③ 美濃市観光協会・美濃和紙あかりアート展実行委員会
- ④ 美濃和紙を使用したあかりの艺术作品を募集し、美しさを競うイベント。作品は、市の中心市街地で国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された、江戸情緒漂う「うだつの上がる町並み」に展示し、審査される。イベントが高く評価されることで、市の一大観光イベントとして認知された。
- ⑤ 100,000人(平成18年)
- ⑥ 10月上旬～中旬
- ⑦ うだつの上がる町並み
- ⑧ <http://www.minokanko.com>

58 ことばのちからイベント事業

松山「俳句甲子園」(P26～29参照)

- ① 松山・21世紀イベント「ことばのちから2001」
- ② 愛媛県松山市
- ③ (社)松山青年会議所
- ④ 「ことばのちから」事業の中で展開される参加型イベント。全国の高校生がチームメイトとともに俳句の手腕を競い合う。多くのボランティアや商店街の協力により新たな夏の風物詩として、また観光スポットとして取り上げられ、松山ならではの文化が街の活性化につながってきている。
- ⑤ 26,000人(平成18年)
- ⑥ 8月18日～19日
- ⑦ 大街道商店街ほか
- ⑧ <http://www.haikukoushien.com/>



31 いいだ人形劇フェスタ

- ① いいだ人形劇フェスタ
- ② 長野県飯田市
- ③ いいだ人形劇フェスタ実行委員会・飯田市・飯田市教育委員会
- ④ 日本最大級の人形劇の祭典。国内外から約300劇団が会し、350を越えるステージを展開。前身の人形劇カーニバルの時代から28年目を迎え、市民の主体的文化運動として定着している。市民ボランティア約2,300人がこのイベントに参加していることが大きな成果である。
- ⑤ 46,000人(平成18年)
- ⑥ 8月2日～5日
- ⑦ 市内全域および周辺町村
- ⑧ <http://www.iida-puppet.com>



選考委員紹介 (肩書は当時)

●選考委員長

石井幹子
照明デザイナー

●選考委員

岡崎昌之
法政大学教授

宮本倫明
イベントプロデューサー

マリ・クリスティーン
異文化コミュニケーター

新原芳明
総務省大臣官房審議官

嶋津昭
全国知事会事務総長

三村泰史
毎日新聞社広告局長

吉田弘正
財団法人地域活性化センター理事長

石井幹子 選考委員長の総評

今回審査を行って、実にさまざまな独創的イベントが全国で行われていることに驚かされました。地域の自然や特長を活かしたものの、歴史や伝統を継承したもの、アイデアに秀でたものなど、最終審査に残ったものはいずれも甲乙つけがたい優れたものばかりでした。

大賞を得た「美濃和紙あかりアート展」は、特産の和紙を使った明かりのアートを公募し歴史ある街並みに展示するという美しいイベントとして、「ことばのちから2001」は、言葉という無形のを多様に展開させたイベントとして、各々高い評価を受けました。

その他、前身から数えて23回を重ねた人形劇フェスタの努力や、新しいスポーツイベントとしての溪流滝登りも独創性が評価されました。

地域の活性化にこのようなイベントが数多く生まれることは、日本全体に新たな活気と喜びをもたらすこととして今後を期待しています。

48 がいせん桜まつり



【文化・交流】部門賞

- ①がいせん桜まつり
- ②岡山県新庄村
- ③がいせん桜まつり実行委員会
- ④出雲街道の宿場町として栄えた新庄宿の町並みに日露戦争の戦勝記念として植えられた桜は「がいせん桜」として村を代表する風物となっている。その開花時期に合わせて開催するこのイベントは23回目を迎え、村民が長年大切に守り育ててきた桜を資源として、村民総参加の手づくりの祭りとして地域活性化につながっている。
- ⑤30,000人(平成18年)
- ⑥4月中旬
- ⑦がいせん桜通り
- ⑧<http://www.shinjoson.net/>

5 しもかわアイスクャンドルフェスティバル



【産業・観光】部門賞

- ①しもかわアイスクャンドルフェスティバル
- ②北海道下川町
- ③しもかわアイスクャンドルミュージアム実行委員会
- ④氷のランプシェードとろうそくで街を飾る。住民が創りだしたアイスクャンドルが道内外へ広がりを見せていることは住民の大きな自信につながっている。極寒と遠隔地のハンディを乗り越えて多くの人が訪れることに、住民が勇気付けられまちづくりの励みとなっている。
- ⑤10,000人(平成18年)
- ⑥2月中旬
- ⑦町民総合グラウンド
- ⑧—

65 国際溪流滝登りinななやま



部門賞【都市・スポーツ】

- ①国際溪流滝登りinななやま
- ②佐賀県唐津市
- ③ウーバンブー七山(平成17年まで。19年以降は未定)
- ④七山の自然のPRとともに、清流を次世代へ残そうと言う目的で昭和62年に初開催。滝や急流の溪流を泳いだり助け合いながら登ったりするもので、平成17年には1,500人(内、外国人156人)が参加した。佐賀を代表するイベントとして都市住民や外国人との交流を通しての地域活性化に寄与している。
- ⑤1,500人(平成17年)
- ⑥8月第3日曜日(平成18年は未開催)
- ⑦七山滝川
- ⑧—

51 21世紀未来博覧会(山口きらら博)



選考委員特別賞 特別賞

- ①21世紀未来博覧会(山口きらら博)
- ②山口県
- ③21世紀未来博覧会協会
- ④「いのち燦めく未来へ」をテーマに開催。目標入場者数200万人を上回る入場者を得た。山口県の元気や魅力、未来への可能性を全国にアピールすることができたイベント。
- ⑤2,514,178人
- ⑥受賞年のみの開催(平成13年7月14日～9月30日)
- ⑦山口市阿知須きらら浜
- ⑧—



大賞

はっさく

55 八朔人形まつり

- ① 仁尾八朔人形まつり2002
- ② 香川県三豊市
- ③ 仁尾町商工会
- ④ 1579年3月3日、仁尾城が落城。以来
 女兒の雛祭りを男児の馬節句である八
 朔(旧暦8月1日)に同時に行う珍しい祭り。
 園児や、老人会など地域のあらゆる団体
 が参画し手づくりで行っており、地域の融
 和が図られている。また、四国内外から多
 くの見学者を迎え、街の活性化に大きく
 寄与している。
- ⑤ 17,000人(平成18年)
- ⑥ 9月下旬
- ⑦ 仁尾町総合文化会館周辺
- ⑧ <http://www.shokokai-kagawa.or.jp/nio/>

14 松明あかし

- ① 松明あかし
- ② 福島県須賀川市
- ③ 松明あかし実行委員会
- ④ 四百年以上の伝統を持ち、日本三大火祭りの一つに数えられ
 る勇壮な炎の祭典。実行委員は多くの市民団体で構成されてお
 り、市民はもとより観光客も参加できる参加型祭り。参加すること
 で郷土の歴史に触れ地元を思う心が生まれた。小学校では総合
 学習で松明あかしの歴史を学ぶ授業も行われている。
- ⑤ 120,000人(平成18年)
- ⑥ 11月10日
- ⑦ 松明通り・翠ヶ丘公園五老山
- ⑧ <http://www.city.sukagawa.fukushima.jp>

優秀賞



66 鹿島ガタリンピック

- ① 鹿島ガタリンピック
- ② 佐賀県鹿島市
- ③ フォーラム鹿島
- ④ 日本一広大な有明海の干潟で開催される大運動会。ユニーク
 さで全国版となり、これを契機に干潟体験に全国の修学旅行生
 が訪れるなど地域の活性化に大きく寄与している。また、イベント
 を作り上げる過程で地域間・世代間の連帯感や郷土愛が生まれ、
 市民の大きな自信となっている。
- ⑤ 25,000人(平成18年)
- ⑥ 5月下旬
- ⑦ 七浦海浜スポーツ公園(道の駅鹿島)
- ⑧ <http://www2.saganet.ne.jp/gatalym/index.htm>

優秀賞



選考委員紹介 (肩書は当時)

●選考委員長

石井幹子
照明デザイナー

●選考委員

岡崎昌之
法政大学教授

宮本倫明
イベントプロデューサー

マリ・クリスティーン
異文化コミュニケーター

田中正昭
総務省大臣官房審議官

嶋津昭
全国知事会事務総長

島田三郎
毎日新聞東京本社広告局長
兼広告営業本部長

小林実
財団法人地域活性化センター理事長

石井幹子 選考委員長の総評

今年のイベント大賞も全国からたくさんの方の応募があった。独創性の高いもの、ユニークさで傑出しているもの、歴史と伝統に根ざしながらスケールアップしたもの、文化の香りの高いもの、農業や産業とかかわったものなど、様々な支店からの取り組みが目立った。

日本全体に暗い話題が多く、経済も低迷している中で、地方からこのように元気よい発刺としたイベントが湧き上がってくるのは、大変心強く嬉しいことである。

大賞の「仁尾八朔人形まつり」は、大勢の町の人々が参加した手づくりのイベントで、楽しさに満ちている。優秀賞の「松明あかし」は、歴史と伝統のある大がかりな光イベントで、新たに観光客が参加できるものとした所が、「鹿島ガタリンピック」は、干潟を逆手にとったドロンコゲームというユニークさが高く評価された。

その他の各賞も甲乙つけがたく、全体に優れたものが多かった。日本各地の様々なイベントが、地域の活性化に役立つことを期待している。

26 金沢・浅の川園遊会



- ① 金沢・浅の川園遊会
- ② 石川県金沢市
- ③ 浅の川園遊会開催委員会
- ④ 地域住民のボランティアで運営され、屋外の特設舞台では素囃子、仕舞、狂言などの伝統芸能やおどり、お座敷太鼓などが行われる。平成18年には民間団体と地元大学との連携事業の一環として大学生約130人がボランティアで参加。次世代の風土・文化を大切に意識の高揚につながった。
- ⑤ 170,000人(平成18年)
- ⑥ 4月8日～9日
- ⑦ 金沢浅野川河川敷(天神橋～中の橋間)
- ⑧ —

38 中馬のおひなさん



- ① 中馬のおひなさん
- ② 愛知県豊田市
- ③ AT21倶楽部
- ④ 昭和50年から保存に努めてきた足助の町並みに、三河地方に伝わる土びなをメインとしたひな人形を飾る祭り。今では130軒余りに展示され、冬は人通りのなかった商店街が最も賑わう季節になった。また、おばあさんが説明役を買って出るなど、高齢者がいきいきと活躍するようになっている。
- ⑤ 50,000人(平成18年)
- ⑥ 2月10日～3月11日
- ⑦ 足助町町並み一円
- ⑧ <http://www.mirai.ne.jp/asuke/>

45 なら燈花会 (P22～24参照)



- ① なら燈花会
- ② 奈良県奈良市
- ③ NPO法人なら燈花会の会
- ④ 公園内を1日約2万本のろうそくで幻想的に照らし出す、奈良の夏の風物詩と言えるイベント。年々市民サポーターの数も増え、会場周辺の自治会などでもカップを並べるなど活動が広がっている。日帰り観光客が多いが、平成16年には、県外来場者が県内を上回った。
- ⑤ 702,000人(平成18年)
- ⑥ 8月6日～15日
- ⑦ 奈良公園一円
- ⑧ <http://www.toukae.jp>

30 農林ピック・そばフェスタ



- ① 農林ピック・そばフェスタ2002
- ② 福岡県池田町
- ③ 農林ピック・そばフェスタ実行委員会
- ④ 農村文化を素材にした競技性あるイベント。6mの丸太よじ登りや30cmの杉丸太のがんど(のこぎり)引きなど。また、そばフェスタはそばの味比べをはじめ、地元素材を使った特色ある食のメニューや特産品などが楽しめるイベント。農村池田が広くPRされ、地域ブランドづくりに貢献するとともにまちづくり力の向上に寄与した。
- ⑤ 13,000人(平成17年)
- ⑥ 平成17年終了
- ⑦ 池田町内一円
- ⑧ —

3 沼田町夜高あんどん祭り



- ① 夜高あんどん祭り
- ② 北海道沼田町
- ③ 沼田町夜高あんどん実行委員会
- ④ 優雅で勇壮な田祭りとして、開拓の祖「沼田喜三郎」翁の出身地である富山県小矢部市から昭和52年に伝承された。北海道三大あんどん祭りの一つに数えられる。高さ7m、長さ12m、幅3m、重さ5tの巨大なあんどんの「ぶつけあい」で祭りはクライマックスを迎える。
- ⑤ 97,000人(平成18年)
- ⑥ 8月24日～25日
- ⑦ 沼田町市街地一円
- ⑧ <http://www.town.numata.hokkaido.jp>



大賞

にしおご
15 西塩子の回り舞台
歌舞伎公演 (P10~12参照)

- ① 西塩子の回り舞台歌舞伎公演
- ② 茨城県常陸大宮市
- ③ 西塩子の回り舞台保存会
- ④ 平成9年に地域に伝わる組立式農村歌舞伎舞台を半世紀ぶりに復元。翌年には時芝居の一座も結成し、その後原則として3年に一度、舞台組立と歌舞伎公演を実施している。地元小学生も歌舞伎に取り組み、舞台道具の製作や組立作業には高校生や大学生を含む市内外のボランティアも多数参加するなど、地域文化を見直すきっかけとなっている。
- ⑤ 4,000人(平成18年)
- ⑥ 次回は平成20年11月上旬予定
- ⑦ 大宮公民館塩田分館グラウンド
- ⑧ <http://www.city.hitachimiya.lg.jp/kankou/>

22 つがわ狐の嫁入り行列

- ① つがわ狐の嫁入り行列
- ② 新潟県阿賀町
- ③ つがわ狐の嫁入り行列実行委員会
- ④ 町のシンボル「麒麟山」に伝わる狐火伝説を基にして、江戸時代の嫁入り風俗を再現。イベントを契機として歴史的建造物の保全や修景活動が官民一体で進められている。平成18年は中越地震や大雪の災害の傷がまだ癒えぬ中、仲人に県知事を迎え、全国的にPRした、これにより過去最高の観客動員数を記録。
- ⑤ 53,000人(平成18年)
- ⑥ 5月3日
- ⑦ 阿賀町津川地内一円
- ⑧ —



優秀賞

さいと
71 西都古墳まつり

- ① 西都古墳まつり
- ② 宮崎県西都市
- ③ 西都古墳まつり実行委員会
- ④ 「古代から現代・そして未来へ」というテーマのもと、市内の若者有志による実行委員会が発足。以来20年間、古代を体感・体験できるまつりを目指し、たいまつ行列や炎の祭典、その他古代を体験できる多くの催しの企画・運営に取り組み、今では市民・県民の秋の風物詩となっている。
- ⑤ 95,000人(平成18年)
- ⑥ 11月3日~4日
- ⑦ 西都原御陵墓前広場
- ⑧ <http://www.kanko-saito.ecnet.jp/kohunmatsuri.htm>



優秀賞

選考委員紹介 (肩書は当時)

●選考委員長

石井幹子
照明デザイナー

●選考委員

岡崎昌之
法政大学教授

宮本倫明
イベントプロデューサー

マリ・クリスティーン
異文化コミュニケーター

田中正昭
総務省大臣官房審議官

中川浩明
全国知事会事務総長

佐藤良逸
朝日新聞社取締役東京本社広告局長

小林実
財団法人地域活性化センター理事長

石井幹子 選考委員長の総評

ふるさとイベント大賞も回を重ねて、今年で8回目となりました。今年も全国から様々な優れたイベントの応募がありました。

大賞の「西塩子の回り舞台歌舞伎公演」は、埋もれていた文化財を掘り起こし、その古い舞台を組み立てて公演を行うことが、伝統や技術の継承や習得にもつながる町おこしとして、高い評価を受けました。

優秀賞の「西都古墳まつり」と「つがわ狐の嫁入り行列」は、ともに開催歴も長く、優れた内容のもので、参加者数や動員数も多いことが評価されました。

部門賞は、「文化・交流」「産業・観光」「祭り・スポーツ」と分けられていますが、各々に最適なものが選ばれたと考えています。

優れたイベントを創造し実行することは、地域の活性化を促すと同時に、そこに住む人々の生活を豊かにし、地域への愛情を育む契機になると信じています。



部門賞

〔文化・交流〕

54 ビッグひな祭り

- ①ビッグひな祭り
- ②徳島県勝浦町
- ③ビッグひな祭り実行委員会
- ④家庭で飾らなくなった雛人形を全国から集めて供養するとともに一堂に展示する。町の新しい顔として定着し、今や全国に知られるイベント。本会場だけでなく周辺地区ではおひな様の奥座敷、奥の院として軒先におひな様を飾り人気を集めている。また、期間中は町をあげておひな様を飾ろうと動き出している。
- ⑤40,000人(平成18年)
- ⑥2月18日～3月21日
- ⑦人形文化交流館ほか
- ⑧—



部門賞

〔文化・交流〕

39 近江中世城跡 琵琶湖一周のろし駅伝

- ①近江中世城跡琵琶湖一周のろし駅伝
- ②滋賀県米原市
- ③近江中世城跡保存団体連絡会
- ④城跡で「のろし」を上げることで信号伝達して琵琶湖を一周する。平成18年には45カ所の各山城で10～70人が参加し、それぞれの地元で特色あるイベントが開催された。年々参加自治会が多くなり、岐阜県にも広がるなど、このイベントをまちづくりの一環として位置づける自治会が多くなってきている。
- ⑤1,500人(平成18年)
- ⑥11月23日
- ⑦滋賀県および岐阜県関ヶ原町内中世城跡
- ⑧—



23 えちごせきかわ大したもん蛇まつり

- ①えちごせきかわ大したもん蛇まつり
- ②新潟県関川村
- ③えちごせきかわ大したもん蛇まつり実行委員会
- ④昭和42年8月28日に発生した大水害と村に伝わる大蛇伝説の2つをテーマに全村民が参加して楽しむ祭り。長さ82.8m、重さ2tの竹とわらで作った大蛇(世界一の長さでギネスブックに認定)は村内全54集落が分担して製作したもので、これを400人が担ぎ上げて練り歩く。ほかに、灯ろう流しや福まき、花火大会などがある。
- ⑤10,000人(平成18年)
- ⑥8月24日～26日
- ⑦関川村役場周辺
- ⑧—



〔祭り・スポーツ〕 部門賞

大賞

60 あったか高知まんがフェア・全国高等学校漫画選手権大会 (まんが甲子園)

① あったか高知まんがフェア・第13回全国高等学校漫画選手権大会

② 高知県

③ 高知県、「あったか高知」まんがフェスティバル実行委員会

④ 平成18年に15回目を迎えたこの大会は、全国から330校の応募があった。15回目を記念して本選出場校を増やしたほか、過去の大会出場者を審査員として招待。全国の高校生はこの大会に出場することを大きな目標としており、毎年マスコミから注目を浴びるなど、高知県を全国にPRできるイベントとなっている。

⑤ 7,000人(平成18年)

⑥ 8月4日～5日

⑦ 高知市文化プラザ「かるぽーと」

⑧ <http://www.tosa-te.ne.jp/katsuraLC/>



76 南の島の星まつり

① 南の島の星まつり

② 沖縄県石垣市

③ 南の島の星まつり実行委員会

④ 88のうち84の星座を見ることができる同市で「石垣島をライトダウンして家族みんなで楽しもう 満天の天の川」をテーマに旧暦の七夕前後の土・日に開催。漆黒の闇に浮かぶ天の川を見る観望会、石垣島天文台などの施設公開、講演会などを開催。自然の豊かさを再認識し、観光の振興につながっている。

⑤ 12,000人(平成18年)

⑥ 8月18日～19日

⑦ 石垣港新港地区サザンゲート広場ほか

⑧ <http://www.city.ishigaki.okinawa.jp>

優秀賞



47 岡山弁はええもんじゃ

～ことばの祭り・建部～

① 第5回岡山弁はええもんじゃ～ことばの祭り・建部～

② 岡山県建部町

③ 建部町

④ 3分間で自慢の岡山弁で漫才などを披露する「岡山弁パフォーマンス」のほか、「岡山弁JAGA!」の著者・青山融さんによる「岡山弁講座」では、「アルファベットで遊ぼう!」と題し、岡山弁を掘り下げる。親しみやすい企画で笑いの中にも岡山弁を見つめなおすきっかけとなっている。

⑤ 500人(平成18年)

⑥ 10月

⑦ 建部町文化センター

⑧ <http://www.town.takebe.okayama.jp/>

優秀賞



選考委員紹介 (肩書は当時)

●選考委員長

石井幹子
照明デザイナー

●選考委員

岡崎昌之
法政大学教授

宮本倫明
イベントプロデューサー

マリ・クリスティーン
異文化コミュニケーター

荒木慶司
総務省大臣官房総括審議員

中川浩明
全国知事会事務総長

小林実
財団法人地域活性化センター理事長

石井幹子 選考委員長の総評

今年のイベント大賞にも、沢山の応募が全国から寄せられました。

大賞の「あったか高知まんがフェア」は、まんがという世界的にも注目を集めている文化に特化して、13年も続くユニークなイベントとして、高い評価を受けました。

優秀賞の「岡山弁はええもんじゃ」は、方言の文化的価値をクローズアップした姿勢に賛同が集まりました。「南の島の星まつり」は、地元の持つ自然を最大限に生かし、少ない費用で大きな効果が得られることを立証した貴重なイベントとして評価されました。

部門賞は、各々に素晴らしいもので、選ばれた4つのイベントは、音楽、伝統、観光、スポーツなど、それぞれ別の視点を持ち、ユニークなものばかりです。「えひめ町並み博2004」は高い評価を受けましたが、第1回目ということもあって、選考委員特別賞となりました。

全体的にレベルが高く、このようなイベントが各地に増えることは、地方の活性化という意味からも、心強い限りです。

43 丹波の森国際音楽祭シューベルティアードたんば (P36～38参照)



- ① 丹波の森国際音楽祭シューベルティアードたんば2004
- ② 兵庫県篠山市・丹波市
- ③ 丹波の森国際音楽祭シューベルティアードたんば実行委員会
- ④ 国境を越えた地域規模の視野と草の根の地域の視点で「丹波の森国際音楽祭」を捉え、お寺や神社・酒蔵・学校など各街角でクラシックコンサートを開催し、音楽を通じた地域づくり・仲間づくりを行っている。近年は、都市部との交流を重点に置き、文化でつながる豊かな丹波地域を目指している。
- ⑤ 6,337人(平成17年)
- ⑥ 9月上旬～11月中旬
- ⑦ 丹波地域および阪神地域一円
- ⑧ <http://www.schubertiade.gr.jp>

53 高開石積ライトアップ



- ① 高開石積ライトアップ
- ② 徳島県吉野川市
- ③ 美郷宝さがし探検隊・美郷ほたる館
- ④ 美郷地区は今でも堅固で美しい石積みを残す数少ない地区の一つで、この石積みは生活・文化・歴史の象徴として市民の誇りとなっている。石積みのライトアップにより新たな魅力を創出したとともに、光の演出によって冬の浮かび上がる優美で幻想的な姿は冬の風物詩として市内外に知られている。
- ⑤ 500人(平成17年)
- ⑥ 8月中旬と12月中旬
- ⑦ 吉野川市美郷地区高開の石積
- ⑧ <http://www.tcu.or.jp/misato/hotaru/>

18 南総里見まつり(館山城まつり)



- ① 南総里見まつり(第23回館山城まつり)
- ② 千葉県館山市
- ③ 南総里見まつり実行委員会
- ④ 里見水軍や子供武者、八犬伝ゆかりの地からの八犬士など総勢約150人と27台の山車・神輿のパレード。また、「戦国合戦絵巻」と称して戦国時代の戦いを再現。市内の多くの地域からの参加があり、市を代表するイベントとなっている。史実にもとづく里見氏とそれを楽しむ人々による感動一杯の祭りである。
- ⑤ 55,000人(平成18年)
- ⑥ 10月21日
- ⑦ 城山公園、JR館山駅、鶴谷八幡宮ほか
- ⑧ <http://www.city.tateyama.chiba.jp>

17 安政遠足侍マラソン



- ① 安政遠足侍マラソン
- ② 群馬県安中市
- ③ 安政遠足保存会・安中市
- ④ 安中藩主が藩士の心身鍛錬のために行ったとされ、日本マラソンの起源とも言われる「安政遠足」。これを復元したイベントで、旧中山道の風情や沿道での地域交流も楽しめることから、県内外を問わず多くの参加者があり、またその約6割は武者姿、時の人やアニメキャラクターなどの仮装をして走る。
- ⑤ 15,000人(平成18年)
- ⑥ 5月12日～13日
- ⑦ 安中城址～碓氷峠くつろぎの郷・熊野神社
- ⑧ <http://www.city.annaka.gunma.jp>

57 えひめ町並博2004



- ① えひめ町並博2004
- ② 愛媛県
- ③ 愛媛県町並博2004実行委員会
- ④ 「町並み」を舞台にしたバビリオンのない住民主体の観光まちづくり型博覧会。終了後も、引き続き南予地域の観光振興に取り組んでいくため官民が一体となって南予広域連携観光交流推進協議会を設立し、地域住民活動を主体とする新たな体験プログラムの開発・磨き上げを行ったり、HPによる情報発信をしたりしている。
- ⑤ 1,739,222人
- ⑥ 受賞年のみの開催(平成16年4月29日～10月31日)
- ⑦ 愛媛県南予地域一円
- ⑧ <http://www.tabinanyo.jp/>



大賞

① 小樽雪あかりの路

- ① 小樽雪あかりの路
- ② 北海道小樽市
- ③ 小樽雪あかりの路実行委員会
- ④ ろうそくの温かな灯火が、運河をはじめ小樽のノスタルジックな街並みを優しく照らし出す。冬だからこそ感じられる北の旅愁、人の温もりを伝える「静」のイベントとして、市民一人ひとりがおもてなしの心と明かりで人々を歓迎する。身近な素材を使った地域参加型イベントとして、地域コミュニティの醸成にもつながっている。
- ⑤ 505,000人(平成18年)
- ⑥ 2月9日～18日
- ⑦ 小樽運河・手宮線跡地ほか
- ⑧ <http://www.otaru.gr.jp/>



優秀賞

⑪ エアロパティックジャパンINかくだ (P16～18参照)

- ① エアロパティックジャパンINかくだ2005
- ② 宮城県角田市
- ③ エアロパティックジャパンIN角田実行委員会
- ④ グライダーによる曲技飛行を披露する。同市がグライダーのメッカとして知られるようになり主催者の目指すオンリーワンのまちづくりイベントとして定着しつつある。イベントの開催に当たっては、地元企業や商店街、行政の協力もあり、民間主体の一大イベントに成長している。
- ⑤ 2,000人(平成18年)
- ⑥ 10月6日～7日
- ⑦ 阿武隈川河川敷角田滑空場
- ⑧ <http://skynetkakuda.hp.infoseek.co.jp/aero-japan.htm>



優秀賞

⑩ 藤沢野焼祭

- ① 藤沢野焼祭 ② 岩手県藤沢町
- ③ 藤沢野焼祭実行委員会
- ④ 日本の文化の発祥として縄文土器に着目。野焼きという豪快な手法で焼き上げる「土と炎の祭典」である。作品は町内外、県外からも多く寄せられる。生前の岡本太郎氏や池田満寿夫氏等も応援団として参加しており、東北に誇るイベントとなっている。また、学校においても作品を制作しており、地域の誇りの再認識につながっている。
- ⑤ 3,000人(平成18年)
- ⑥ 8月11日～12日
- ⑦ 藤沢中学校グラウンド「特設縄文村」
- ⑧ <http://www.town.fujisawa.iwate.jp/noyaki/noyaki.htm>



部門賞 [文化・交流]

⑫ モントレージャズフェスティバルイン能登

- ① モントレージャズフェスティバルイン能登2005
- ② 石川県七尾市
- ③ モントレージャズフェスティバルイン能登開催理事会・実行委員会
- ④ 1989年アメリカカリフォルニア州モントレー市と七尾市和倉温泉観光協会がジャズを通じた友好を目的としてスタートしたイベント。本場から選抜された高校生によるビッグバンドが来日し、滞在中はホームステイなどで市民とのふれあい交流を実施。「ジャズが薫る港町七尾」を目指している。
- ⑤ 2,600人(平成18年)
- ⑥ 7月下旬
- ⑦ 七尾マリンパーク
- ⑧ <http://www.noto.or.jp/monterey-jazz/>

選考委員紹介 (肩書は当時)

●選考委員長

石井幹子
照明デザイナー

●選考委員

岡崎昌之
法政大学教授

宮本倫明
イベントプロデューサー

マリ・クリスティーン
異文化コミュニケーター

荒木慶司
総務省大臣官房総括審議員

中川浩明
全国知事会事務総長

小林 実
財団法人地域活性化センター理事長

石井幹子 選考委員長の総評

全国から126の優れた事例が寄せられた中、選考委員一同の投票と、さらにディスカッションによる検討がなされ、大賞以下、各賞が決定されました。

大賞に輝いた「小樽雪あかりの路」は、今では全国に知られるイベントですが、内容も優れたもので大賞にふさわしい高得点を得ました。優秀賞の「藤沢野焼祭」は、30回という長い年月での開催と縄文をテーマにしたユニークさが評価され、「エアロパティックジャパンINかくだ2005」は、まだ2回目ではありますが、グライダーを使ったイベントで今後の発展を願って選ばれています。

部門賞の「モンレージャズフェスティバルIN能登2005」は国際性が、「土谷棚田の火祭り」は灯火と棚田を組み合わせた美しさが、とくに評価されました。今回、選考委員特別賞を得た「コウノトリ未来・国際かいぎ」は、全員一致で受賞が決定しました。

受賞の皆様方に心よりお祝い申し上げます。

13 さくらんぼ種飛ばしジャパングランプリ



部門賞 [産業・観光]

- ① さくらんぼ種飛ばしジャパングランプリ
- ② 山形県東根市
- ③ さくらんぼ種飛ばし実行委員会
- ④ 「佐藤錦」発祥の地、さくらんぼ生産量日本一の同市をPRするイベント。さくらんぼの種をどれだけ遠くに吹き飛ばせるかを競う。さくらんぼのプレゼントもあり魅力満載。市商工会青年部が「いつでもどこでもさくらんぼの種飛ばし大会競技セット」を企画販売し、好評を博している。
- ⑤ 5,500人(平成18年)
- ⑥ 6月24日
- ⑦ 東根市役所庁舎南側「市民の広場」
- ⑧ <http://www.city.higashine.yamagata.jp>

どや 68 土谷棚田の火祭り



部門賞 [産業・観光]

- ① 土谷棚田の火祭り
- ② 長崎県松浦市
- ③ 土谷棚田保存会
- ④ 「日本の棚田百選」に認定された土谷棚田を擁する土谷地区の住民が保存会を立ち上げ、PRのために開催した火祭りイベント。畦道に設置した多数の松明に火を灯すと、田植え後の水面に炎が映え、幻想的な光景を創り出す。本州からも多数の観光客が訪れる全国的イベント。
- ⑤ 2,000人(平成18年)
- ⑥ 未定
- ⑦ 福島町土谷免
- ⑧ —

34 氷点下の森 氷祭り



[祭り・スポーツ] 部門賞

- ① 氷点下の森 氷祭り
- ② 岐阜県高山市
- ③ 飛騨あさひイベント実行委員会
- ④ 平成18年に31回を迎えた飛騨高山の冬の風物詩。山の一軒宿「秋神温泉旅館」の主人が飛騨の厳冬を利用し清水を木々に吹きかけて氷の森を作り上げる。氷点下の森を会場に地域伝統芸能の披露や大花火大会を開催。厳しい自然環境を活かすことで地域をPRし、冬の観光客誘致につながっている。
- ⑤ 5,500人(平成18年)
- ⑥ 2月10日
- ⑦ 朝日町胡桃島秋神温泉旅館前
- ⑧ <http://www.city.takayama.lg.jp>

56 獅子舞フェスタ (P30~32参照)



[祭り・スポーツ] 部門賞

- ① 獅子舞フェスタ
- ② 香川県三木町
- ③ 三木町・獅子たちの里三木活き生きふれあいまつり実行委員会
- ④ 戦後、急速に勢いを失った町内の獅子舞を復活させ、町の魅力を再発見し住民同士の連帯感を高めようと始まった。日本最大級の大獅子3頭や集落自慢の小獅子41連の競演、全国の有名獅子をゲストに招くなどにぎやかな内容で、県内外から訪れる観光客とのさまざまな交流が生まれている。
- ⑤ 30,000人(平成18年)
- ⑥ 9月22日
- ⑦ 三木町総合運動公園
- ⑧ —

42 第3回コウノトリ未来・国際かいぎ



特別賞

[選考委員特別賞]

- ① 第3回コウノトリ未来・国際かいぎ
- ② 兵庫県豊岡市
- ③ 第3回コウノトリ未来・国際かいぎ実行委員会
- ④ 同市では、コウノトリの野生復帰を目指し長年保護増殖と地域の受け皿づくりを進めてきた。イベントにあわせて5羽のコウノトリを放鳥、国際かいぎでは、これまでの取り組みの検証と今後の方向性と課題を整理した。世界でも類を見ない自然放鳥を行い、地域の自覚と自立を促しただけでなく社会全体に大きな影響を与えた。
- ⑤ 2,702人
- ⑥ 受賞年のみの開催(平成17年9月23~25日)
- ⑦ 豊岡市内一円
- ⑧ <http://www.city.toyooka.lg.jp/>

第11回ふるさとイベント大賞

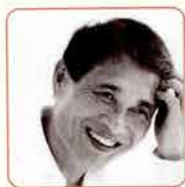
財団法人地域活性化センターでは、平成18年度に第11回ふるさとイベント大賞を開催します。

今年は、全国から選りすぐりの211イベントの応募がありました。

受賞イベントは、平成19年3月5日(月)に開催される表彰式で発表します。

第11回からは選考委員の顔ぶれも新たに、より「ふるさとらしさ」を大切にしたいイベントを審査し、さらに皆さんに喜んでいただける賞としていきます。

第11回ふるさとイベント大賞 選考委員 (敬称略)



選考委員長

北山 孝雄

(株)北山創造研究所代表



選考委員

甲賀 雅章

(株)CIセンター代表取締役



選考委員

セーラ・マリ・カミングス

(株)樹一市村酒造場取締役



選考委員

萩原 なつ子

立教大学社会学部助教授



選考委員

牧村 真史

(株)集客創造研究所所長



選考委員

久保 信保

総務省大臣官房総括審議官



選考委員

中川 浩明

全国知事会事務総長



選考委員

谷合 靖夫

(財)地域活性化センター理事長



第10回 大賞受賞「小樽雪あかりの路」のPR企画(場所:ふるさと情報プラザ)

受賞イベントを 全国に紹介

平成18年度は受賞イベントを取材撮影し、DVDを作成。また有楽町ふるさと情報プラザにおいてPR企画を実施しました。さらに、NHK BS-2では「地域を活かせ!『第9回ふるさとイベント大賞』」と題し、受賞イベントの様子が放送されました。

ふるさとイベント大賞 10年

平成19年1月発行

編集・発行

財団法人地域活性化センター

〒103-0027 東京都中央区日本橋2-3-4 日本橋プラザビル13階

TEL.03-5202-6136

FAX.03-5202-0755

URL <http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/>

制作：株式会社ぎょうせい

